0032218000

0032218-000

特２５６－２０７

市川市要覧

房総日日新聞社

昭和１０

AFB

特256
207

千葉縣畜産組合聯合會

市川競馬場

市制施行記念

市川市要覽

市川市

市川市要覽

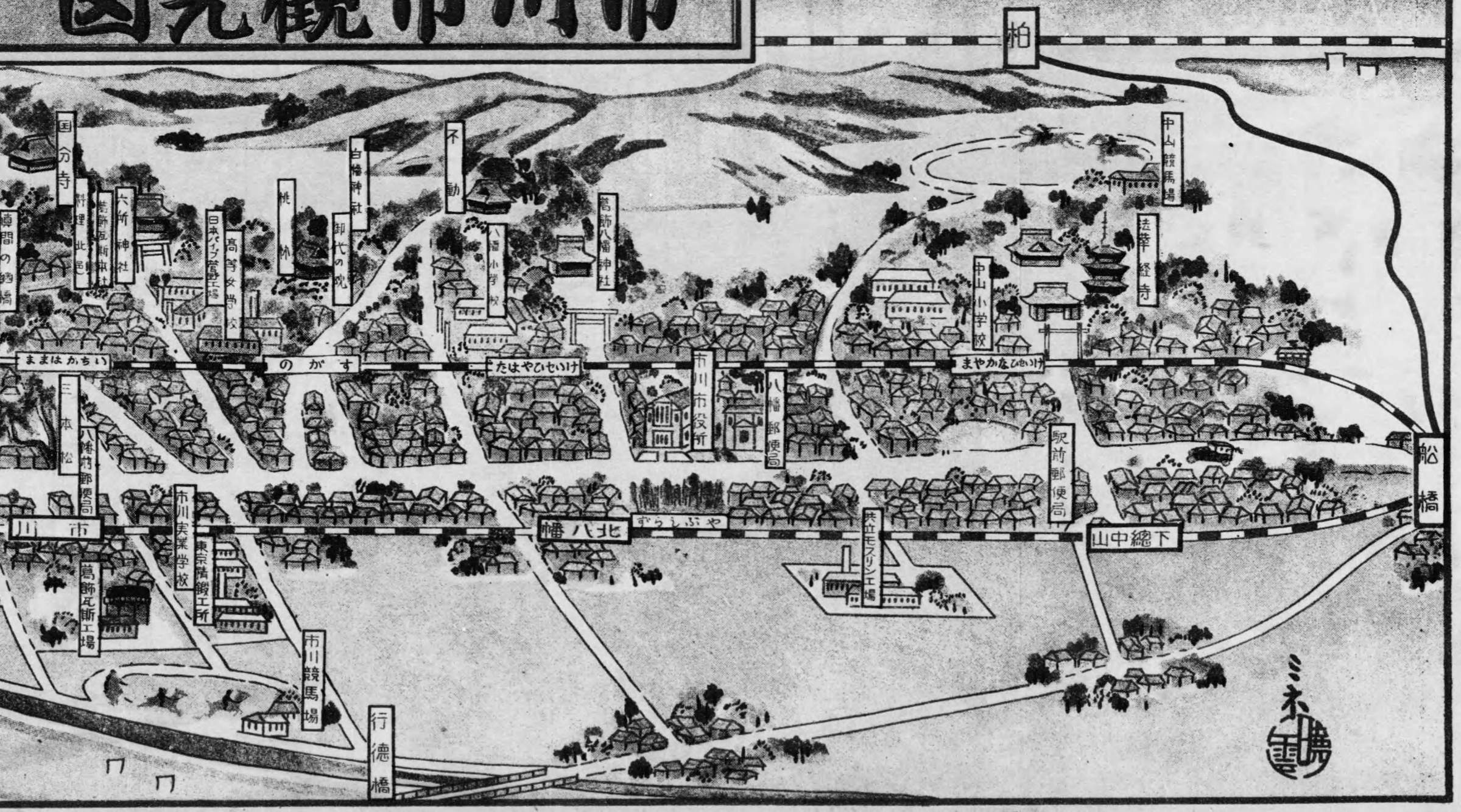
市川市財務行政念

[illegible]業[illegible]組合聯合會

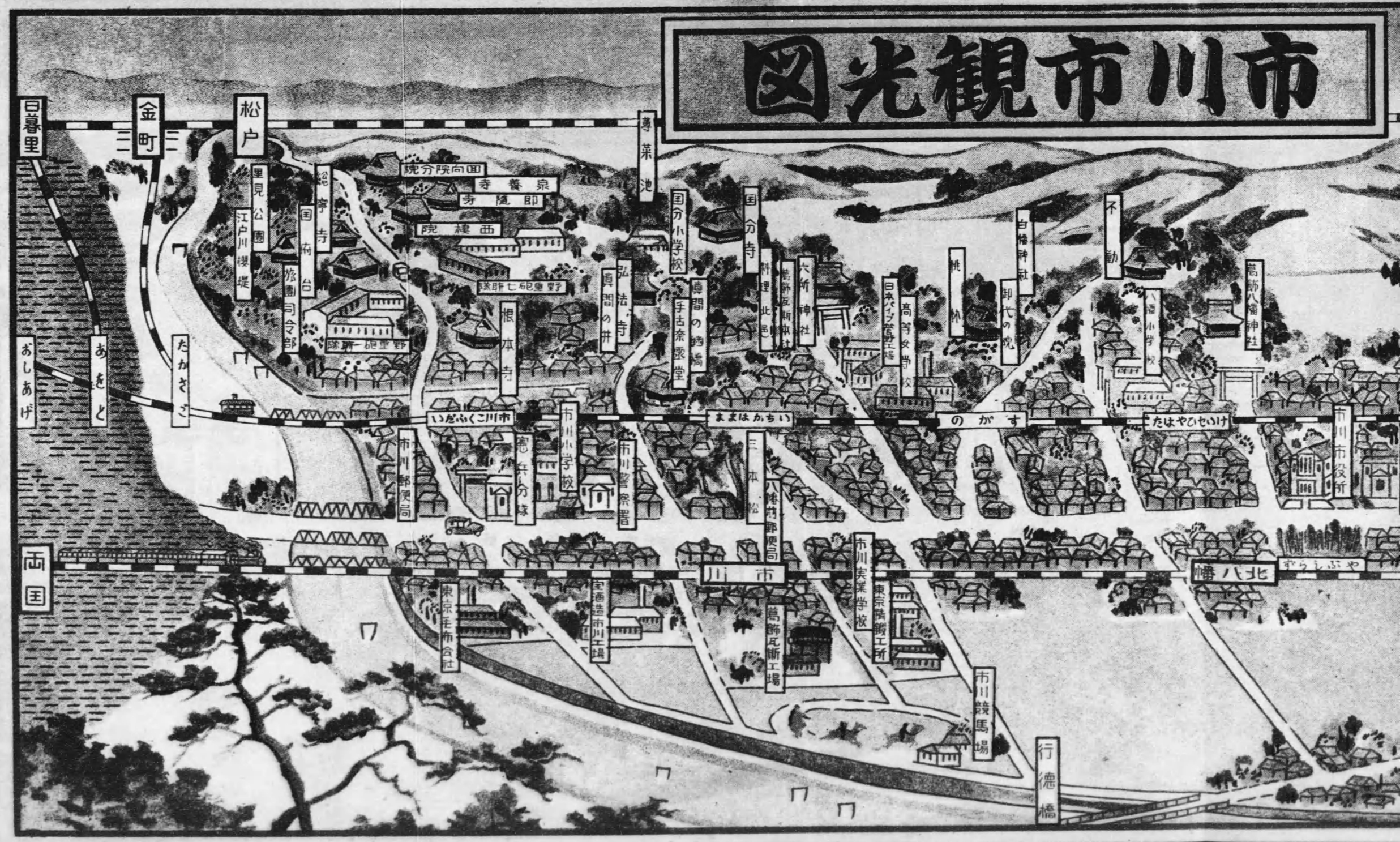
[illegible]

[illegible]

市川市観光図



柏
国分寺
料理北邑
葛飾瓦斯本社
六所神社
日本パイプ菅工場
高等女学校
桃林
白幡神社
卸代の碗
不動
八幡小学校
葛飾八幡神社
中山競馬場
法華経寺
中山小学校
ままはかちい
のがす
たはやひせいけ
まやかなひせいけ
三本松
八幡前郵便局
市川市役所
八幡郵便局
駅前郵便局
船橋
市川
市川実業学校
東京精鍛工所
葛飾瓦斯工場
北八幡
ずらしぶや
共立モスリン工場
下総中山
市川競馬場
行徳橋



市川市観光図
日暮里
金町
松戸
里見公園
江戸川櫻堤
総寧寺
国府台
旅團司令部
野重砲一聯隊
回向院分院
泉養寺
即隨寺
西棲院
野重砲七聯隊
根本寺
真間の井
弘法寺
尊菜池
国分小学校
国分寺
真間の鮪橋
手古奈泉堂
料理北邑
葛飾瓦斯本社
六所神社
日本パイプ管理工場
高等女学校
桃林
白幡神社
卸代の院
不動
八幡小学校
葛飾八幡神社
おしあげ
あをと
たかさご
いだふくこ川市
ままはかちい
のがす
たはやひせいけ
市川市役所
市川郵便局
憲兵分隊
市川小学校
市川警察署
三本松
八幡前郵便局
両国
市川
北八幡
ずらしぶや
東京毛布会社
室酒造市川工場
葛飾瓦斯工場
市川実業学校
東京精鍛工所
市川競馬場
行徳橋

まへがき

顧れば菊花香る、昭和九年十一月明治の佳節に市川市制實施を見て茲に諸般の施設成り機關亦完備して市川市は旭日昇天の勢を以て名實共に自治體の首班たるに恥ずるなきに至つた。

凡て事の成るや成るの日に成るに非ずしてその以前に斯る結果を得るの素因あるを常とす。市川市も亦この意味に於て地勢、住民全く今日以前に於てその體を作したものであり、舊市川、八幡、中山、國分は何れも或は觀光地帶とし住宅地帶として最も適當なるところであり、産業亦豊かに將來益々伸展する可能性がある、この恵まれたる大市川市を將來よりよく進展せしめることは我等の念願であり、義務であることを痛感する。

今將來を慮るものは過去を顧るの必要なるを思ひ、本縣新聞界の權威房總日日新聞社の手に編輯印刷を委ね、本書を刊行することになつた。收むる處の各篇觀光、産業、住宅の三部門に分れ微に入り細に渉つて覧錄、居ながらにして、過去及び現在の大市川市を一目瞭然たらしめ且つ將來を卜しその進展の誤りなからん事を期す次第である。

今や世界の大勢は、文字通り一九三五、六年の危機に直面し、獨逸の占斷は歐洲列國に驚異の目をかけられ、滿洲國の獨立は漸く確然たるものありと雖も、尙東亞の風雲安定の域に入らず我等は此經濟に、軍事に、益々堅禪の秋にあるを惟ふ時希くば先づ一本を備へて靜思三考本市民たるの覺悟に裡あられんことを。

古語に曰く「先づ脚下を省顧せよ」と、

本書刊行に際して一言以てまへがきとす。

昭和十年三月

市川市長　浮谷竹次郎

はしがき

光輝ある歷史の一頁を飾る市川市制施行は無事平穩に昨年菊花薫る佳節に誕生した。

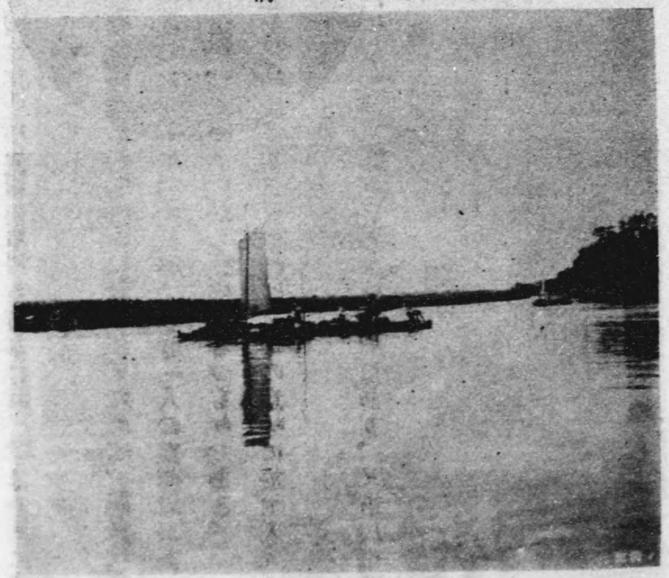
この新興都市に向ひ、市民は明朗な氣運に燃えて前途を祝福し限り無き努力をする事は敢へて筆者の言を俟たぬ處であるが、市民の意氣と覺悟は又頗る重大で其の責任は市政の運行に關係し、左右される事火を見るよりも明かである。

されば、この意味に於て市民はひろく諸般の狀況、施設及び關係を知り、複雜なる自治制に一見識を備へてこそ緊喫の問題であり明るい自治體も出來得る事と思ふ。

幸ひ市川市は他市町村に比して、觀光に、產業に、土地に良く、總べてが天惠に適ひ整備されておれば市民の今後の飛躍發展は疑ひなく遂げられ新市の面目と誇りを完ふする事は蓋し容易に出來る。

茲に本書は聊か筆者の淺見微才を不顧大市川市の現況を詳に調査探究し材料の蒐集を遂げ觀光の都市市川、產業都市市川、住宅都市市川の三大篇に分けて摘錄し、市民の炯眼に或は都人士への案內に誘引紹介の目的を以て、更に各篇を細大に亘り記して市制施行記念に備へんとするもので、其

市川橋



江戸川清流

の目的は到底達し得べくもないが只一冊の單なる觀光本として用ひ參考ともなれば、筆者の大に喜びとする處であり感謝に堪えぬ次第である。

尚本書は稿を草するに際し、當初より郡人士遊覽を目的として編纂に意を注ぎたれば、觀光地圖をも附し、出來るだけ市内の名所舊蹟、史實を掲載したつもりであるが、筆者一人の重荷でもあつたれば他日ゆつくり機會あれば、更に補筆修正、加文して完全を期し詳述するつもりである。

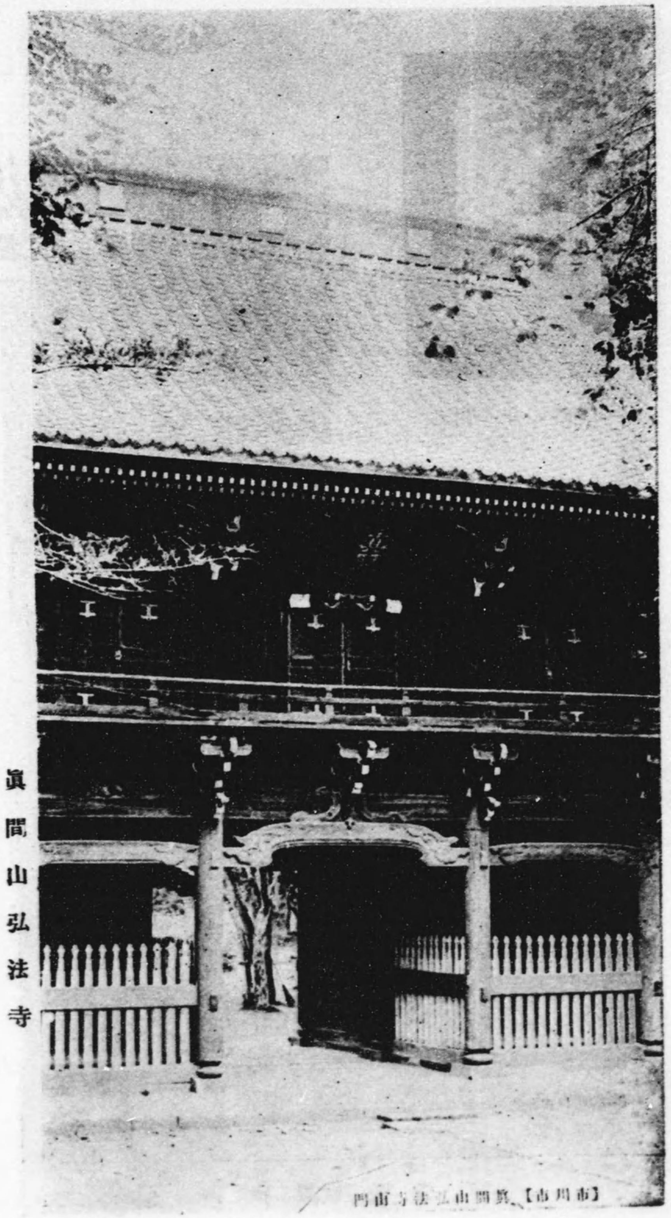
尚に三春の行樂は人をして生き甲斐のある價値を思はせるものであれば、この意味に於て人々の行樂の慾を唆つて見たいとも念じ敢へて本書を刊行せし所以である。

特に本書の表紙は有名な日本畫の大家町田曲江畫伯に依頼麗筆を乞ふたものであり、又市川市要覽の題字は市川市長浮谷竹次郎氏の執筆になるものである。

今後行頒布に際して、氏に深く敬意を表する次第である。

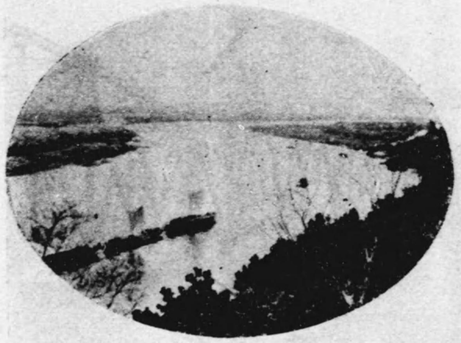
昭和十年の早春

菊地しるす



【市川市】眞間山弘法寺山門

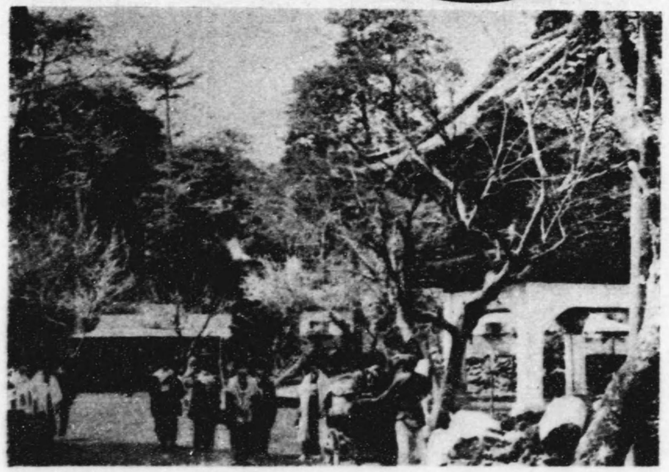
眞間山弘法寺



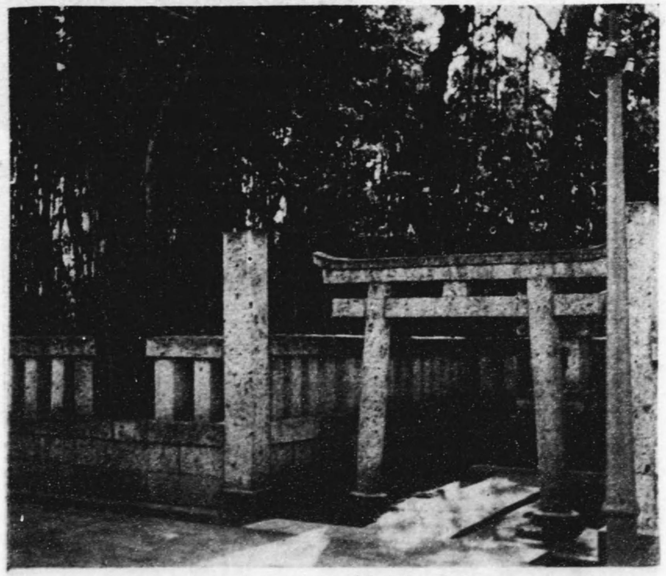
里見公園の眺望

一安國の晩鐘

總寧寺境内↓



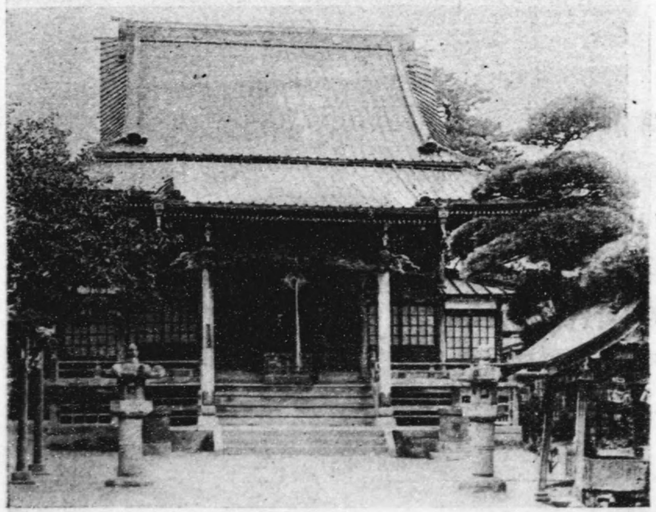
縣社八幡神社



八幡數不知

眞間の井の碑

眞間の井



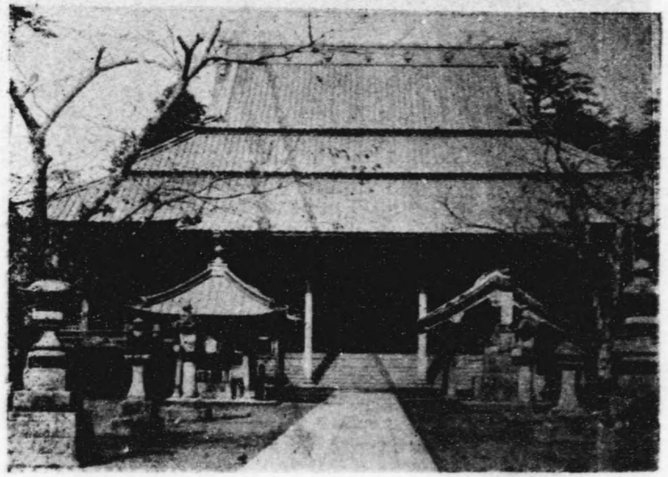
手兒奈靈堂

市川の三本松

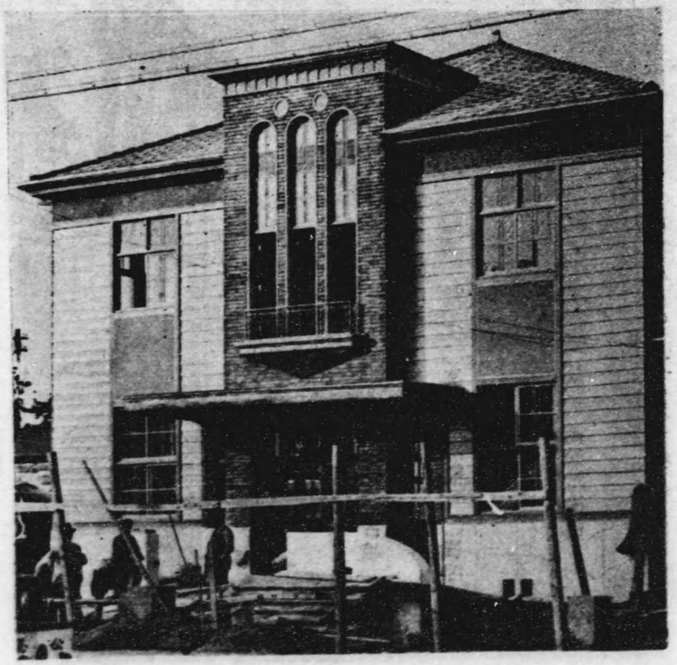
↑ 泣銀杏

→ 寺内の五重塔

↓ 中山法華經寺



→省線市川驛
市川市役所↓



市川市要覽目次

表紙繪……町田曲江
表紙題字……浮谷市川市長
市川市觀光圖……
まへがき……一
はしがき……三
口繪寫眞……六

觀光篇

一、名所舊蹟……一
史蹟名所巡りの順序……二
國府臺……五
○國府址　○國府臺城址　○鐘懸松
○鐘ヶ淵　○里見弘次墓　○古墳
里見公園……八
○里見八景

總寧寺……一一
○道灌手植の樹　○小笠原政信墓
國分寺……一二
○御堂坂　○持國坂　○國分寺の行井戸
○國分五郎城址　○諸貝塚
眞間山弘法寺……一四
○双葉楓　○大和守直基墓　○古墳
手兒奈靈堂……一五
○眞間の井　○眞間の繼橋　○眞間の
浦　○浮島の辨財天
根本寺……一六
○枕返し不動尊　○安產練地藏尊
福寶山西棲院……二〇
○呑龍上人
蓴菜池……二〇

三本松……二
（明治天皇御賞讃の松）
市川の桃園……三
○東遊園
御代の院……三
八幡不知の藪……三
縣社八幡神社……三
○大農具市
○中山法華経寺……三六
○法華堂 ○泣銀杏 ○七経塚 ○姥ヶ池
史蹟名勝記念物……三〇
○市川上出口行在所 ○市川第六天前
行在所……三
三、神社佛閣……三
神社……三
○六所神社 ○日枝神社 ○春日神社
○稲荷神社 ○胡録神社 ○八幡神社
○稲荷神社 ○春日神社 ○胡録神社
○諏訪神社 ○天満神社 ○國府神社
○縣社八幡神社 ○白幡神社
○八幡神社 ○神明社 ○子ノ神神社
○安房神社 ○八幡神社 ○高石神社
○第六天社 ○天神社
寺院……三
○國分寺 ○安國寺 ○龍球院 ○寶珠院
○東光寺 ○經王寺 ○笠圖寺 ○蓮正寺
○安穏寺 ○本住寺 ○弘法寺 ○玄授院
○安國院 ○龍泉院 ○龜井院 ○總寧寺
○極樂寺 ○観音寺 ○根本寺 ○卽圓寺
○西棲院 ○回向院別院 ○泉養寺
○不動院 ○高圓寺 ○所願寺 ○頂圓寺
○東昌寺 ○法華經寺 ○法華經寺地内

の寺院 ○泰福寺 ○浄禁寺 ○常圓寺
○法見寺 ○妙正寺 ○神明寺
三、遊覧と娯樂……四一
観光の市川……四一
江戸川土堤の櫻……植草……ピクニック
……釣……船遊……水泳場……月見
……紅葉……
市川市の行事……四三
競馬場……四四
○市川競馬場 ○中山競馬場
活動常設館……四五
○松竹館 ○三松館
花柳界……四六
市川音頭……四六
○國府臺三業組合 ○眞間三業組合
○中山三業組合
舞踏場……四七
○市川ダンスホール

産業篇

一、農業……四八
農産物……五二
○米麥 ○蔬菜類 ○果樹類 ○人
畜産物……五四
○家畜（未決） ○中山
農會及組合……五五
○市川市農會 ○養鶏組合
○東葛牛乳畜産組合
二、工業……五六
醸造業……五七
○燒酒 ○味噌 ○醤油
紡績及機械工業……五七
○モスリン ○毛布 ○絹織物 ○パイプ

工産物……五八
○金屬製品 ○眼鏡線
諸工場會社要覽……五九
○東京精鍛工所 ○共立モスリン會社
○小澤眼鏡工場 ○信工舍製作所 ○寶
酒造市川工場 ○田中醬油釀造工場
○中村味噌釀造工場 ○東京毛布株式
會社 ○東京パイプ製造所 ○日本パイ
プ菅野工場 ○葛飾瓦斯株式會社
三、商業……六六
商業地……六六
○市川商工會 ○市川家庭購買組合
金融機關……六七
○千郵合同銀行市川支店 ○川崎第百
銀行市川出張所 ○國民共濟無盡市川
出張所 ○共榮無盡市川出張所 ○千
葉無盡市川出張所 ○市川信用組合

住宅篇

一、土地及戸口……七一
市川の起源……七二
人情・風俗・習慣……七三
住宅地帶の市川……七四
二、交通運輸……七六
省線……七七
○市川驛 ○八幡驛（未完） ○中山驛
京成電車……七八
○國府臺驛 ○浪岡驛 ○菅野驛 ○八幡
驛 ○中山驛
水運……七九
○江戸川
道路……七八
○國道 ○縣道 ○市道

通信……八〇
○市川郵便局 ○八幡前郵便局
○八幡郵便局 ○中山驛前郵便局
三、官衙公署……八一
市川市役所……八二
松戸區裁判所市川出張所……八四
市川警察署……八五
市川憲兵分隊……八五
野戰重砲兵第三旅團司令部……八六
野戰重砲兵第一聯隊……八六
野戰重砲兵第七聯隊……八六
國府臺衛戍病院……八六
四、各種團體……八七
帝國在鄉軍人聯合分會……八七
市川市消防組……八八
青年團及女子青年團……八八
共立モスリン青年團……八九
國防婦人會……八九
共立モスリン國防婦人會……八九
市川香林會……九〇
……市川看護婦組合
耕地整理組合……九二
隔離病舍組合……九二
江戸川水防組合……九三
國府臺水道組合……九三
五、教育機關……九三
市川實業學校……九四
國府臺女學院……九五
市川市各小學校……九六
○市立實業補習學校 ○青年訓練所

○市立圖書館
市川女塾日本青年協會……九七
八幡學園……九八
郊外學園……九九
六、名士人物……九九
市川市の有志……九九
○本多貞次郎　○浮谷權兵衛
○浮谷竹次郎　○中村勝五郎
○隈元政次　○上村友兄
○高橋統間　○田中喜兵衛
○小澤元重　○町田曲江
○桐谷洗鱗　○林　德松
○木村彦五郎　○川上秀一
○佐々木熊次郎　○鈴木浦次郎
○吉野仁吉　○石橋勝之助
○須賀金右衛門
市會議員……一二四
○大和久吉郎　○吉岡利光
○松崎清吉　○石井喜代太郎
○米本濱次郎　○高原正高
○後藤仁助　○岩澤貞
○橫山富次　○福地新作
○監物正三郎　○鳥羽辰之助
○後藤泰次郎　○山田萬吉
○五十川玖表　○小林勝太郎
○田中光三郎　○染谷元治
○小林義重　○北川善太郎
○山下角太郎　○椎橋己喜雄
○平松元次郎　○武田吉次
○山崎久吉　○岡田耕平
○柴田眞作　○中島一郎
○宇田川裕藏　（以上廿九名）
舊名譽職者……一二〇

＝終り＝

觀光篇

一、名所舊蹟

名にし負ふ阪東太郎の巨流を北西に、手賀の碧湖の青水連波、葛飾浦の淨鏡は時として澎湃飛沫を散らして海岸を洗ふなど、名峰巨嶽などと云ふも大自然は擧げて名勝である。遙に富士の秀峰、筑波の雪山を望みて、延々たる連山恰も我が庭上の勝、臺地一望千里眼下に關八洲の大平原を望む處、大市川の觀光地帶として將に雄にして且つ大なるものであらう。古來から名所として、國府臺、總寧寺、國分寺、眞間山、弘法寺、手兒奈靈堂、八幡不知の籔、法華經寺の泣銀杏、三本松、等々枚擧に遑がない。

若しそれ手兒奈靈堂に一世の佳人眞間の手兒奈が天成の美貌に思ひを寄せる誰彼の多きに煩ひされて美人薄命の諺通り眞間の入江に身を沈めた情操を訪れ、如何に情緒的古き歷史のあるかを思へば眞間の浦邊の白砂、一石亦我等が千古の情調に物の憐れを知る乙女心の美しさを忍び得るであらふし。國府臺八幡不知の籔等にその昔の傳說が如何に地方的に扱はれてゐたかゞ伺はれよう。

中山や狭女もこぞる御命講（子規）と、歌人の口に乗つた大乗一佛の妙法に一天四海皆歸妙法の大沛を醸して我こそは上行菩薩の再來なりと喝破した日蓮大上人が百座の法莚を敷いたと云ふ、中山法華經寺は、新市川市の精神的、思想的の中樞であらう。中山派一流の新藤に依る利益顯現の大法は非常時國家更生の礎として、大市川建設の礎石として見逃し得ぬ處である。

一旋新興都市大市川に杖を曳くものはこの精神的大法雨の地帶に雄大な自然を賞して、物心兩樣の觀光に時を忘れるであらう。以下各名所舊蹟に就て詳說する。

史蹟名所巡りの順路

省線兩國驛より來れば市川驛へ下車し、驛前自動車發着所より松戸行（渡邊バス）乘合自動車に、一方京成電車押上驛、或ひは上野驛より來れば國府臺停留場に下車し、市川市街の一番高臺で眺望絶佳なる場所として古戰場に名高い、國府臺へ下車、遠く昔國府のありし古を偲び、古戰場として史實を殘す、國府臺城趾を探り、眞見塚、大觀臺、天守跡、氏康床几塚、拔ケ穴、龍潭井、鐘懸松、さては、夜泣石、と讀んで字の如く此地方に凶變起る時必ず夜泣いたと云ふので、里見義弘が大刀拔いて石を切りつけた刀痕のあるめづらしい夜泣石など限りなき名跡を見て、鎭壓寺、を參詣し境內の昔乍らより名殘を忍ばせる鐘樓に注目し、更に景趣溢るばかりの絶勝を

以て聞えし八景を、眞見公園の西部の斷崖に立つて眺望すれば、江戸川を隔てゝ武藏野一帶に吹く嘯嵐は又格別なもので田園趣味橫溢し、雄大廣濶の氣分は漲る。それより引きかへして縣道に出で右側に野重一、七聯隊の兵舍を眺め乍ら國府臺の坂を下りつめて中町左側に安產練地藏尊で有名な根本寺を參詣し、子寶の授かる樣お札を買ひ求めて約二十丁程先き、眞間川の流れに浴ふて左へ、櫻並木の土堤を三、四丁行つて更に左に折れ萬葉集の歌に名高い、眞間の繼橋を渡り眞直ぐに突き當り數十階の石段を上り、眞間山弘法寺の山門に名工運慶の作と云ふ、金剛力士を見て、楓樹で多い境內を步ゆみ、弘法大師の創立されし本堂に參詣する。

眞間の秋紅葉に酒の匂ひ哉　鬼貫

物食ふに茶莚借るや若楓　嵐竹

茲で水戸光圀卿の名づけ給ひし遍覽臺に憩ふて新興大市川市の展望をなし、下りて約半丁の處左側世にも憐れな美人手兒奈靈堂に參詣して、古のありし夢に暫し思ひを乘せ、安產子育の靈驗を得させ給えと心に念じ、もと來し繼橋を渡つて一直線に六、七丁大門通りを過ぎて國道に出で、左へ三丁程步むと、明治天皇の習志野へ行幸の途次御覽遊ばされしと云ふ、名木三本松を見上げ、その幹が道路へ凱旋門の樣になつて居るなどは確にめづらしい、全國に又とない御土產話が出來る。之で大體舊市川町に於ける史蹟は濟んだが市川市街の全部は倒底步行では困難であるが、幸ひ京成電車連絡の乘合自動車が國府臺

——千葉間の國道を絶えず走つておれば、手を上げてストップを命じ坦々たる路線にまつしぐら、約五分も乗車して、八幡の藪不知前へ下車、茲で昔からこの藪に入ると出る事が出來ないと云ふ不思議な藪を見る。それより藪と千葉街道（國道）を隔て、京成電車の軌道を越し大鳥居を眺める。之が市川市の氏神樣として縣社で名高い八幡神社のある處、由緒深い神社で京都岩清水八幡宮を移せるもの代々武將の崇敬厚く開運を祈られしと云ひ字多天皇御親筆の勅額（八幡宮）の三字を御書きありしものもあり、その他種々國寶に値するものがある。是より京成電車八幡から電車に乘つて中山に向ふ。この間ホンノ一區域、僅か三、四分で法華經寺のある中山驛へ下車降りると直ぐ電車の軌道の際に黒門がある。

之をくゞつて仁王門に行く間が門前町で石疊を敷き、商家や旅館料亭などが兩側に軒を並べ賑やかなこと夥しい。

日蓮宗五大本山の一で中山法華經寺の名は余りにも有名で、境内は廣々として數萬坪からあり。一日聖日蓮の遺跡から名勝史蹟を探れて遊ぶも又徒爾ならず、豈仙郷に遊ぶ思ひあらんやである。又全所は近く市の指定公園になるとの事故その時は一層人出が增し賑うことであらう。茲し以上を以て史蹟、名所巡りは終つたと云へぬが、春なれば京成中山驛から上野へなり、押上へ向ふ途中八幡、菅野、市川眞間の沿線一帶が桃の花にて紅を呈む、車窓より眺める景色は宛ら一幅の繪卷圖をくり展げられた樣で實に形容出來ぬ美しさである。大體右の經路

を以て終日の史蹟名所巡りは一コースとして終るも、更に他日ゆつくり、新市川市の觀光を訪れる人の便利に左に詳しく、其の一つ〳〵を紹介する。

國府臺

常春の國、房總への旅窓に老杉古松が蒼々として映える丘陵これぞ其の昔、里見義弘が、

「てきを討つ心ままなる國府臺夕日ながむるかつうらの里」

と詠みし有名なる鴻の臺、近時櫻の名所として名高く、毎年春都人士並びに近郊の觀櫻客で公園内は立錐の餘地なく、落花の下に喰めや、唄へやの大亂舞が演ぜられ一大盛觀を呈す。又眺望は絶佳にして斷崖數十仞丈の處に立てば、清涼なる江戸川は脚下に流れ、武相房總の連山は綿々と起伏し、英峰富嶽の巨姿は巍然として雲外に聳え、遠く帝都に林立する煙突からは濃く或は淡く宛ら一脈の白雲を見るが如く、近くには裝飾の沃野が千里渺茫として眼下に展開されて、雄大廣濶の眺望は實に近郊第一と稱される、亦宜べなりと云ふべし。

附近には野戰重砲兵第三旅團司令部及び野重第一、第七聯隊の兵營があり、廣々したる練兵場は青々として清爽なる氣分は橫溢し、若草摘みに家族連れのピクニックには好適地、又四圍には總寧寺を始めとし、古戰場等幾多の名勝史蹟が散在して、終日探勝するも飽きない。眞に東京郊外唯一の遊覽地として人出があり賑ふ。

國府址　國府臺で、眞間山に連がる市内屈指の高臺の處に在る、先年附近の蓴菜池西端に於て發掘された、遺物に依り初めて今の國府臺一帶の地に國府址のある事が確定的にされた。

即ち紀元一三〇六年孝德天皇の御代大化の新政を施かるゝや從來各地方を統治してゐた國造、縣主を廢し、國司、郡司を新に任命し各國々を治めしめたのである。其折下總の國府は現在の國府臺の地に置かれ地方政治の中心地として文化開發の使命を有し、非常な發展を遂げてゐたのである。國府は今の地方廳にして當時下總の國領域は隅田川以東（兩國橋の名は下總武藏の國境）であつた、文武天皇大寶三年七月正五位上上毛野男足初めて下總守に任ぜられ、爾後鎌倉幕府に至る迄守介の任免を見しも遙任のもの尠からざりき。武家時代には單に武將の任官名に用ゐられ、國府は全く廢廳となれり、治承四年八月源賴朝の石橋山に敗れ遁れて安房に入るや、土豪安西、神餘、麻呂、東條等を從へしも上總介廣常召に應ぜず、頗る苦境にあり、千葉介常胤父子賴朝を迎へて國府臺に陣し、多く白旗を立てゝ勢力を張り近國の武士を集め遂に大業を成した處なれば、此地は又賴朝興隆の記念地でもある。

國府臺城址　國府臺の西部、江戸川東岸に屹立せし處、今尙老杉古松鬱蒼として、往時の影を止めぬも、只荒壘殘隍を有し、僅かに當時の偉大なる址を想察するに足りる。

抑々此城の史上に現はれたるは鎌倉大草紙に後花園天皇康正元年八月下總千葉氏嫡庶二派相爭ふて兩立し庶康

胤の子孝胤千葉城に據り、嫡胤直の從弟實胤市川城に據り、各千葉介と稱せり、翌康正二年梁田出羽守千葉實胤を市川に攻めて之を破る。實胤武藏に走り、石濱城を保つ云々と……越えて文明十年太田道灌下總臼井城を攻むるに當つて此地の形勝を見て羨望あたはず得意の築城を試みし處是が今に現存せる城墟なり、後天文、永祿の再度北條、里見爭奪の地となり、遂に北條氏の有に歸せしが天正十八年德川氏に及び江戸俯瞰の要害の地たるを以て家康是れを忌みて永く廢城とせり、明治に至り陸軍教導團を設置して下士教養の源泉地とし教導團の廢さるゝに及び今の野戰重砲兵聯隊となつた。今里見塚、大觀堂、天守地、氏康床几塚、拔ヶ穴、夜泣石、望芙蓉、羅漢井、鐘懸松、鐘ヶ淵等の名蹟が殘されてゐる。

鐘懸松　里見義弘氏が船橋慈雲寺の梵鐘を奪ひ來て軍鐘に用ひ是を懸垂せし松にして軍鐘は誤て江戸川の深潭に沈沒せしと、其處を即ち鐘ヶ淵と稱するなり。

鐘ヶ淵　古戰場跡の下なる江戸川にあり里見氏の軍鐘が墜落して河中に陷りしを以て、此名ありと傳え云ふ。よく夏季水泳者の危險區域内として注意され得る處で、非常に不思議とされて居る。

里見弘次墓　國府臺城址の東北空壕の上に在り、長方石高さ二尺三寸、臺石縱一尺二寸、横一尺六寸、墓面に「里見弘次廟」右側に「文政十二己丑年十一月立焉」と刻し、傍に小石祠あり、内に「里見先亡墓」と刻せり。弘次は里見義弘の臣里見越前守忠弘の長子にして永祿七年國府臺の役に北條氏の臣松田康吉の爲に討たれし

と云ふ。

國府臺の古墳　里見弘次の墓の傍に石槨一大古墳がある、今この石槨の蓋は鏡石として、國分寺より南約四丁隔てし、田圃中の石橋となつてゐるが、恐らく國司時代の高官のものであると言はれてゐる。曾て水戸光圀公が此地に御徴行の際、この石槨の蓋を開けられると一天俄にかき曇り雷鳴さえ轟き槨中より何とも見定めることの出來ぬ物が何處へか飛び出して消え失せ、其の節蓋になつてゐた鏡石が飛び現在の加く小川の橋へかゝつたものであると。

里見公園

里見八景園とも稱し、總寧寺境内に在り、名の如く里見八景の景勝の地として名高く、園内は櫻の名所として名高く櫻樹數千本からあり春は觀櫻の客にて人出が多い。更に鶴見花月園式遊園に似た遊覽の場所があり、家族連れの婦人、子供達には喜ばれてゐる。

里見八景

一、富嶽の暮雲。一、武藏の晴嵐。一、戰場の夜雨。一、安國の晩鐘。一、赤壁の秋月。一、利根の歸帆。一、富西の落鳥。一、市川の夕照。と云ふ。試みに其一勝を味はんか、趣味津々として飽ち恍惚と醉えるが如く、其の壯觀は到底筆舌に盡くされない。左に各々其の詩文を掲記する。

富嶽の暮雲

山紫水明鴻乃臺　朝風萬里掃塵埃
遙看富嶽千秋雪　一句無成投筆回

武藏の晴嵐

西方秩父望群峰　嵐色有聲雲似龍
遠見帝都文化狀　放眸萬里爽吟胸

戰場の夜雨

夜雨肅條鬼火狂　正維里見舊城隍
追回往事不禁淚　朽骨名殘古戰場

安國の晩鐘

炊煙裊裊夕陽沈　山寺鐘聲是梵音
宿鳥歸來眠法界　衆生一切洗胸襟

赤壁の秋月

鴻臺赤壁畫屏中　斷岸千尋從碧空
蘇子舟遊偲往事　一輪明月興無窮

利根の歸帆

利根奔流水運盛　市川橋畔泊船迎
風帆雅致詩情動　遙聞歸帆欸乃聲

葛西の落雁

眺望無比國府臺　葛西平野一望來
數行落雁宛如畫　萬頂田園漁餌回

市川の夕照

秋風掃暑暮蟬吟　對岸堤塘櫻樹林
總武交通軌道渡　無邊夕照三橋潯

（足立柴山詩）

總寧寺

國府臺里見公園入口に在り、曹洞宗總持寺の末にして安國山と號す、釋迦如來を本尊とし、境内坪數一萬五千有餘坪、堂宇（間口十間、奥行十間半）あり、彫陀沙羅菩薩を祀る。

往時は關東の僧綠司三ヶ寺の一つとして結構壯麗を極めたものなるが、現在は全く落魄し見る影もないが。附近一帶には古墳多く、史蹟に富み著名なるもの亦頗る多し。

遺灌手植の樹　總寧寺境内大門の外、佐々木氏賴の下馬札と相對して二株の古槻あり、之が即ち太田道灌の手植と傳へらるも現在は國府臺衛戍病院の門内となつて一般來遊者の目には留まり難い、又同病院内には道灌の稱歎せる老梅がある。

小笠原政信墓　總寧寺境内に在り、五輪塔の高さ一尺五寸、臺石方六尺、表面に「爲圭山瑞雲居士寬永十七上章七月二日」と刻す、政信は關宿の城主で小笠原島の發見者である。最初關宿に葬りしが寬永二年同寺が此地に移るに當つて改葬せしものなりと、尙寺傳に依ると小笠原貞賴とある。

國分寺

市川市の北方舊國分村の中央高臺にある、國分山國分寺は一名金光明寺四天王護國之寺とも稱し、かなり由緒

深き寺院で、境内は樹木鬱蒼として二千七十六坪餘からあり、四方三間半の本堂を中心とし、庫裡、中雀門、書院、不動堂、地藏堂、鐘樓、藥師堂等がある。

抑々も此の寺の開基は聖武天皇の御代天平十三年に諸國國毎に國分寺設置の詔勅が發布せられ、現在の地に國分僧寺なるものが設けられ、僧行基勅を奉じて創立したものである。當時三論を宗旨として丈六（一丈六尺の事）の釋迦及び藥師如來を本尊としたる大伽藍を有し實に結構壯麗を極めてゐた。

されば本尊藥師如來は僧行基の作意せる所なりと、其他毘首羯摩等の彫刻佛體七八體ありしが、本尊を除くの外は悉く烏有に歸せりと云ふ。往古天平十九年の頃に至る迄、樂師殿には十二坊なるものあり、各寺隔番に堂内の莊嚴を勤め、又五箇院なるものあつて多くの寶物を有し、天下に其の名を知られた程の名刹であつたが、惜しいかな再三の祝融の災に遭つて、現今僅かに當時の俤を殘してゐると云ふが、寺院は眞言宗新義派檀林中本寺三色着用の格式を有し、市内外に末寺合計十五ヶ寺程あり、現住職吉澤師は近鄕に名聲高く一世の名僧として檀家の信任頗る篤い。尙寺内には足利初期の仁王一體、寛文年間の不動尊及び萬珠年間の六地藏。石燈籠は藝術的價値高く、國分五郎（千葉常胤五男）の供養塔や梵鐘又は中省門等も見逃してはならないもので、更に空海上人親作の辨天像は正に國寶ものに値ひする。昭和七年發掘された水瓶は國寶的のものでこの他數千の遺物がある。

同寺は近く文部省の名勝史蹟天然記念物保存法に依る指定地となる事に極まつてゐる。

御堂坂　國分寺を出でゝ左へ、寶珠院門前より右折して下り坂を見通し坂と云ふ、之が卽ち往昔國分寺門前にして一目大厦樓門を望める故此の名ありしと、或は御堂坂は之より出でしものと稱される。

持國坂　國分寺より西南約五丁の處に今「ジコクザカ」と呼ばれる場所に昔持國佛を安置せし堂址があつたと稱され、又國分寺朱印書替の時此の坂にて時刻を待ち合せし所より此の名が出でたものと云ひ頗る往昔の感深い。

國分寺の行井戸　國分寺の東南一丁許りの處にある。之は昔國分寺の修行の井戸であつたと云ふ、今は附近の民家に所有されて附近より板碑を出すことが時折あると。

國分五郎の城址及び古墳墓　國分五郎は名を胤通と云ひ常胤の五男にして、國分寺境内は其城址であると傳えられる。又同寺境内先に石塔坂あり墳墓のありし所とも云ふ、今現に石塔坂左上に二基の五輪塔あり、往古は三基にして同所に連續せる、現今の菊菊園中に在りしと、鐫字を檢するに、妙口尻、燈花等を見る、又年號は明應延德等を讀み得られる。

諸貝塚　國分寺より南方、須和田の西方の丘上眺望絕佳の地にあり、里俗に里見塚、大皷塚、物見塚等と稱すれども參謀本部地圖に諸貝塚と記されてある。塚は其底約十間四方、頂上約三間四方にして高さ三間あり、里說に里見義弘遊宴の地と云ひ、或は鴻の臺城の物見塚と云ふ。或は永錄の役此塚に大皷を据え戰ひの駈引を合

國せしと云へるが、國司時代或は其以前の古墳ではないかとされ、又古の所謂鳥見ヶ丘（景行天皇の印旛の鳥見ヶ丘に登るとの故蹟）の跡ではないかと云ふて居る。

眞間山弘法寺

國府臺に次ぐ市川の名所は眞間山弘法寺境内である。此處も同じく國府臺丘陵の地續きで國府臺の南端に位し、境内一万數千坪、全山は鬱蒼たる密林を以て覆はれ、夏の日の涼爽快さは例ふるに物なしである。南方の斷崖に立てば一望の下に市川の全市を臨瞰することが出來、遠くは葛飾、行德、浦安が手に取るやうに見える。數十級の石段を登り切ると朱塗の大樓門が天を突いて聳え、中央に掲ぐる金色燦然たる篇額は四邊鬱蒼として茂る樹間に照り映えて、一際離たる光彩を放つて居る。此樓門に安置する黒色仁王尊は名工運慶の作と稱さる、門を入つて左すれば本堂、方丈、庫裡寶庫等が中門の手前にあり、更に進めば常唱堂、祖師堂、釋迦堂等がある。釋迦堂の本尊は當寺の開基富木入道常忍の作である。

當寺は遙層二十四年弘法大師の創立し給ふ處であつて、天臺、眞言兩部の一大梵刹なりしが、其後富木入道五郎胤繼に日蓮上人の教を奉信し、時の座主權大僧敎了性法印と宗義を論じて、之に打ち勝つた爲に、法印自ら山門を破却していづことも行方知れずとなつたので、入道は古堂を改めて眞間山法華堂と改稱したが、後弘法寺

と呼ぶやうになつた。日蓮宗獨立本山六門家の一で諸ゐる老若婦人、或ひは墨客、詩人、春の觀櫻、夏の綠蔭、秋の紅葉、冬の幽境等四時來往の人々にて賑ふ。

双葉楓

弘法寺境内にあり、初代の双葉楓は明治二十一年の大災に燒失し、今は二世のものにして、一本の葉柄より二枚の葉を出すので此の稱ある。

大和守直基墓

弘法寺境内にあり、墓所に將棊形の巨大塔三基ある。之が卽ち夫妻、母公の墓標で前面石欄を以て圍ひされる、其の素質古雅なる事は眞く當時の世況な物語つて居る。母は阿波國主三好越後守長虎の息女なるも武洲川越の城主從四位下侍從松平大和守源朝臣日晴の道風に導きて遂に數十里の遠き玆に香華院の請託を入れ、遺骨を眞間山に葬つた、直基は又慶安元年八月卒し、遺骸を當山に埋葬され後嗣の追孝な累世に迄及び行はれて居る。

弘法寺古墳

弘法寺境内の西南に高く圓き樹木の覆ひ茂れる處が、その昔市川城の築かれし殘壘なりと云はれるも、或は國司時代の古墳とも稱されてゐる。

手兒奈靈堂

眞間山弘法寺の石段を上りて中門、左手にある堂宇が手兒奈靈堂である。この堂は世にも哀れにして美くしか

りし手兒奈の靈を祀つた安產子育の靈驗顯著なる處として四時參詣人が絶えない。現今手兒奈に就ては種々の傳說が多く其の何れが確かなるものや判然しないが、舒明天皇の御代に眞間國造の女に手兒奈と云ふ麗人があり、隣國の國造の子と結婚したが、後に兩家に爭が起り、手兒奈は夫の不在中舅によつて妊娠中にもかゝはらず夫の磐樟船に乘せられて海に流された。さて手兒奈は眞間の浦邊に漂着して海女となり一兒を擧げたが、容色は更に衰へず誘惑が多いのに惱んだ末その子を殘して入水してしまつた。

その時手兒奈は自分が死んだ後は飽くまで魂は殘つて凡ゆる幼兒の成育を看守る神さならんと念願して果てたと云ふ。實に其の神意の程がしのばれ、この邊り往昔は眞間の入江にして、今は入江橋といふ橋に其の名殘りを止めるも、今の御堂の地は濱邊の古稱「お須惠」と稱せし處に手兒奈の御魂を鎭めまつりて、これに祠を建てたるに始まりしも安產の神さして祀つたのは眞間山中興の開山日興上人であつて、靈夢に依つて建立したと傳えられる、爾來天平九年行基に、弘仁十一年弘法に依りて面目一新し更に文化年中改築あり、大正十年增築して現今に至つたもので傍らなる蓮池は往時の入江を偲ぶに足る。

……萬葉集中手兒奈に關するもの……

かつしかのまゝの手兒奈をまこともわれによすとふ眞間の手兒奈を

そもそのかなしきをにたてめやもにほとりのかつしかわせをにへ

足の音せず行かむ駒もが葛飾の眞間の繼橋やます通はむ

かつしかのまゝの入江にうちなびく玉藻かりけむ手古奈をもほゆ

我も見つ人にも告げむ勝壯鹿の眞間の手兒奈が奧津城所

（山部赤人）

（全　人）

眞間の井　靈堂の左に路を距てゝ、入口に「龜の井」と記した碑がある、これより入つて龜井院の後庭に井戸があり、これを眞間の井と稱して、手兒奈が常用されし井水で、龜の井ともお炊の井とも稱せらる、往昔はこの邊の水はみな塩分が强く飮むに耐えなかつたが、この井戸のみは手兒奈の美しき孝養の心に愛でゝか眞清水が滾々と流れて止まなかつたと、今も尙汲みても汲めども盡きないとの事である。後に蔑れる葦の叢は眞間の奇蹟の一つで片葉の葦といふ。

眞間の繼橋　靈堂の際にある。之は板をつぎ〳〵に架け渡せし入江の小橋で手兒奈が里人の利便を思ひ造らしめたとかいふ、今はつぎはし處でなく、朱塗欄干の石橋にて只その名のみが殘されてゐる。

こゝに日蓮上人の聖詠あり。

「みな人を渡してはてんとせむほどに

我身はもとの眞間の繼橋」

眞間の浦　眞間の浦は又眞間の入江、濱井、勝浦等といふ、市川、須和田、國分等の地を繞回し、今多く田畴となり僅に一葦帶水を殘す、其較々として廣濶の處が、國分の導桑池となりて其の殘りを留むるのみで今の眞間川の江戸川に注ぐ所より眞間に沿うて國分沼に至る一帶の水田が所謂眞間の入江にて、その昔は泥土膝を沒し到底歩行すら困難なる場所なりしが、府廳に接し、又手兒奈のローマンス、國司交替等の爲に京人の來往激しき爲漸次發展を來したといふ。

浮鳴の辨財天　手兒奈靈堂の附近眞間川のほとり、耕地整理事務所側の貯水池の土堤上にあり、花柳界方面の信仰厚く參拜者頗る多い。又春の花時は四邊一面の櫻花で市川の櫻としては此の邊が一番眞い場所とされてゐる。

根本寺

根本寺は國府臺の坂に上る手前右側に在る、眞言宗の名刹で、その創建は非常に古く延長五年千二十餘年前にして、和州豊山少池坊弘現大僧正の創開にかゝるといふ。元祿六年の記錄に依れば中興開山から同年迄に五百五

年を經て居るとの事で、元祿六年から今日迄は實に二百十餘年である。當寺には得難き寶物が多々ある。

枕返し不動尊　根本寺の有名な御本尊にて丈一寸八分、弘法大師の親作である。往昔當寺無住の頃當寺に宿り込んだ者が御本尊に足を向けて寢て居ると、睡眠中いつしか本尊の方へ枕が返されてゐたといふ奇異な事から枕返しの名が出で詳判になつたものである。

安產練地藏尊　根本寺の先師故金剛房力明和尙が幼少より深き〳〵大信念の下に女人二世濟度の大願を起して弘法大師に祈誓をこらすこと生涯五十有餘年、四國の遺跡を巡拜祈願すること實に卅三回に及び、終に大願成就して授けられし地藏尊である。此地藏尊は女人最大の厄難たる產に就ては其靈驗の顯著なること既に萬人の知る處であるが、一名「時間地藏尊」とも言はれ、姙婦一度此の地藏尊を祈願する時は其の姙婦の心に願ふ通りの時間に、例へば朝と願へば朝、夜と願へば夜、又何時より何時迄の間と願へばその通りの刻限に無事に安產することが出來るといふ。以て其靈驗の顯著なるを知られる。その實例も多々ある。御影、御符、腹帶のお守等は本寺で授けられる。

毎年二月當寺で行はれる節分會は厄落しの靈驗あらたかである爲年男の申込多く年々繁昌してゐる。又安產講の參拜は毎年四月全國各地よりの講社團體多く年々大賑ひを呈する。尙毎月二十七日の本尊命日には護摩を上げる人で混み合ふ。

福寶山西棲院

國府台を上がり松戸街道に向つて約一丁半の處通稱佐久間塚といふ、寺院街の在る一番先手が即ち福寶山西棲院である。當院は淨土宗の名刹で、本尊は阿彌陀如來、その昔は東京淺草にあつたが、その後本郷に移り、天明の大火に燒けてから本所太平町に移り、大正十二年の大震災を蒙つて、昭和三年現地に移轉したのあある。其の創基は元元祿年即ち今より二百四十五年前、有名なる猛譽上人の開基にかゝり、關東十八壇林中の錚々たる名刹で靈山寺の最初は開山堂であり、後隱居所式の別院となつて居たと稱せられる。度々祝融の災を蒙つて居る爲記錄の殘存せるものなく詳細は知り難いが、寺格高く御朱印等も多くある由である。

呑龍上人　本院に奉安される本尊は、上洲太田大光院の御分身呑龍上人で、子育て開運等には大田の呑龍樣と寸分變らぬ御守護ある爲昔からの信仰者で遠くより尋ね來て參詣する者が多い。

蓴菜池　國府台より數町の處佐久間塚寺院街の後方に晝尙暗き杉松等の密林がある。此の密林の中に入ると細長き池がある。長さ約十町に及び兩側は密林にて覆はれ、池の深さも何程あるか殆んど知る由もなく只不思議なる氣味の惡い池とのみ稱されてゐるが、池の中には多くの蓴菜が茂つてゐるので誰いふともなく蓴菜池と呼んでゐる。青々とした水面は夏尙涼しく森嚴そのものである。

三本松の通り

三本松

市川市五丁目八幡神社境内にあり、その名の如く三幹の老樹が見事に幾百年を經過せしも、現在は伐採されて二本しかないが、一幹は横たはつて國道上に突き出て、馬上の頭首に觸れる高さで其風致は又愛すべきものがある。

嘗て　明治天皇　の武を習志野原にみそなはせ給ふ行幸の途次御賞讃の辭を賜つたとのことである。この三本松の前には活動寫眞館や商店街が櫛比して市川市繁華の中心地帶となつてゐる。毎月一の日には緣日が立ち夜店

等で頗る賑やひを呈してゐる。

市川の桃園

京成電車眞間停留場より菅野に向ふ附近一帯は市川の名所桃林が多く、有名な桃園は菅野驛の北方二丁餘の常磐木の繁茂する脇に約二十間四方の廣さの圍ひにある。陽春三月の中旬から櫻の魁がけをして綿朶の花に紅を染むる時は一大壯觀を呈し、花園の一大繪巻圖を展開も、その景趣は日ん方なく、毎年近在の見物で殷盛を極める が春陽一日の長閑さに家族、子供連れの散策には好適な場所として歡迎されてゐる。

東華園　京成電車眞間停留場前にあり、京成電氣會社の所有であるが、規模左程大ならざるも園内には餘興場の設備と、花園があつて不斷の艶姿を現し、三伏の清涼銀花の眺めは共に佳く、又園外には……青亭あり、嬌艶花と競ふ中に美酒佳肴に舌づゝみを打ち、粋な離れの座敷に低唱するも情緒大に掬すべきである。

御代の院

京成電車菅野停留場から東へ一丁ばかりの松林中に御代院之墓がある。之が即ち世にいふ、みよの院、口碑の傳ふる處に依れば天慶の頃京人に菅野さいふものあり、平將門を調伏する爲に東に下り、其妻の美貌を利用して將門の妾ならしめ、御代の前と呼ばれた。（其御代前の内通によつて將門の軍略を探り大野落城を早からしめ、將門の沒落を圖つたものことで、其後御代の前は夫妻剃髪して此地に住し將門の後を弔ひつゝ世を果てたといふ。後里人その志を可憐とし墓標を建て御代院の墓と稱せるなりと、その後幾度びか破朽せしを更に祠を建設して保護され大に世に表れしなり。

八幡不知の藪

京成電車八幡驛を下車八幡神社と反對の國道に沿ひ廣さ方六十歩位の木棚をめぐらした竹林がある。之が古來より著名なる八幡不知の藪である。今櫛内五百十一歩碑を建て保存に努めてゐる。尚古くから若しこの藪に入る者あれば必ず祟ありと言はれ恐れられし諸説を述べれば……

一、往古八幡神社を勸請したる舊地なりと傳ふ林中今尚石造の小祠を存せり。（稻荷を祠る）

二、行德の入會地なるが故に八幡町民の妄に入るを許さゞりしを以て八幡不知と名づけたり。

三、貴人の古墳なりしを以て里人をして恐れしめ以て之れを穢すを避けたり。

四、往昔瀉瓦斯を發生する孔穴ありて、人附近に立寄れば必ず死せり、又底無の小池ありて人落つれば又出づ

る能はざりし。

五、天慶年中平貞盛此に八門の陣を敷く、其の將門を平げ上洛するに臨み土人に告げて曰く、此は八門遁甲の陣にして死門の一角を遺す、後世人跡を容るゝ勿れ、犯さば必らず祟ありと衆怖れて入らずと。

六、萬治年間水戸黄門光圀、土人の言を聞きて奇異の思をなし、入りて神誠を蒙り、土人に告ぐる樣、是れ凡人の足を容るべき地に非ず、汝等決して禁を犯す勿れと愈々里人を恐れしめしと。

七、日本武尊の御陣所跡なれば恐れて入る事を禁ぜしものならんと。

諸說紛々其是非を斷ずべくもないが、斯くして千古の不可思議を秘めて後の世まで傳えられるものである。

八幡所見

小菅貫

不知何處不知叢　野雉一聲林表風
晨靄疎々看忽散　獵人提銃出葱籠
日くらしや八幡不知も家つゞき　桃林
茨の香や八幡不知のふくらがり　蕉雨

縣社八幡神社

京成電車八幡停留場の傍、國道に向ひ雲をつく大鳥居が建つてゐる、奥へ入ると大門が老松、巨杉の樹木と併立して高く聳えてゐる。社殿の周圍は拜殿、幣殿、隨神門、繪馬舍、神馬舍、神樂殿等廻ぐらされ、崇嚴なる氣分は人をして自づから敬虔の念をいだかせ三拜九拜せしむる、之ぞ由緒深き縣社八幡神社で、境内には淺間神社、天滿神社その他十數社が祠られてある。傳ふる處に依れば本社は人皇第五十九代宇多天皇の寬平年間、勅願あり、鎭座一國一社の定額を當國の鎭守として、京都石清水八幡宮を勸請して、國司郡司の安泰を祈つたものであり、其後代々の武將の崇敬厚く殊に治承四年源賴朝安房國より當國の國府に入り給ふや、自ら此社に參詣して開運を祈願した。其後賴朝總追捕使の權を執るに及んで、建久年中千葉介に命じて社殿は勿論の事、其他悉く造營せしめた由である　文明十一年に太田道灌臼井の一撥退治の爲め國府台に陣した時、參詣して關東の安泰を祈り、私財を投じて社殿の破朽を修理せられたことがある。

其後は戰國時代の兵乱巷地に遭ひ社頭大に衰廢したが天正八年德川家康關東に入國するや、舊記に依つて、同十九年五十二石の御朱印を供御され、それより漸次隆昌を加へて今日に至つたものである。現今境内地は約三萬坪餘あり、老樹多くして景觀頗る良く、中にも千本銀杏と言はるゝは親樹の周圍に數百本の芽生が生長して親樹

と合體した珍らしい神木であり、その周圍は五十尺以上もありて、近く文部省より國寶天然記念物の指定を受けろ筈である。樹は何しろ字多天皇の御手植になるものであると傳へられるから千年以上の齢を經て居るもので眞の名木である。

本殿及び奥殿の玉垣は昭和四年中總石造に改築され從來に倍し一層の壯麗を加ふるに至つた。尚當社はその歴史が古いだけに種々なる寶物が多く、中にも字多天皇御親筆の勅額八幡宮の三字の御書なるもの、又境内の土中より出でたと云ふ、美はしき青銅製の雲鏡もある。その他廣重の畫いたといふ、白酒賣出の圖の額は正に古美術の典型として、是又國寶説がある。尚正宗の奉納に依る古刀一振りと宗近の一振は天下の名寶である。

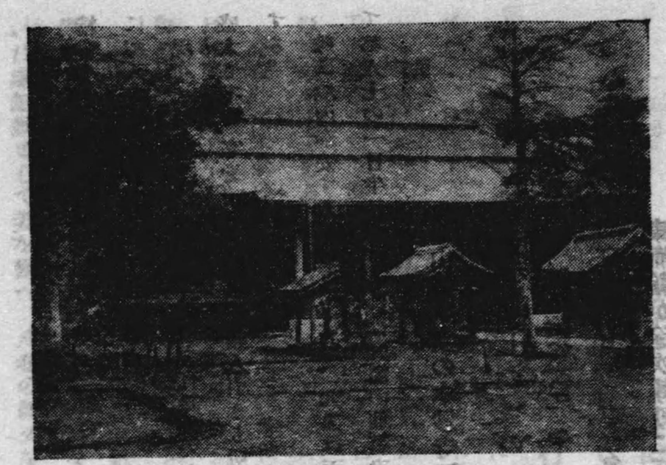
八幡の農具市　毎年九月十五日の八幡神社例祭より同廿日迄六日間開かるゝ農具市は古より關東一と稱せられ、近郷近在より老若男女の參詣者で夥しい人出、又諸商人群集して露店を設け、總ゆる農具一式を揃へ大市場を現出し境内といはず道路といふ道路は全く人の山を築き一大盛觀を極め有名である。

中山法華經寺

京成電車中山停車場を下車して直ぐ左に法華經寺の黒門が立つて居る。これが日蓮宗四大本山の一つで、有名な正中山法華經寺の入口で、黒門に掲げられた大額には「如來滅後閻浮提内本化菩薩、初轉法輪、法華道場」と大書され本山の格式を表はしてゐる。

それより中町ばかりの坂を登りつめると、一大樓門が毅然として聳え、正面の樓上に掲げたる「正中山」の大額は金光燦然と輝き、堂々と四邊を壓し、兩側に仁王、闘魔の大象は眼光炯々と人を射るが如く一大偉觀を極めてゐる。

是より一歩門内に入れば靈域數十萬坪の法華經寺で、名にしおはゞ泣銀杏の老樹を始めとし、老松古杉巨欅等の大幹欝蒼として、天を覆ひ、天日爲に暗く夏尚寒い。此森嚴とした大自然の中に奥の院、祖師堂、大方丈、法華堂、刹堂等巍然として聳え立ち、五重の塔は亭々蔵々として老樹の梢を壓して天空に冲し、境内に林立する大小寺院、鐘樓其の他の建造物は其間に介在して信教の一大殿堂たる威容は嚴然として備はり、靈域に杖を曳くものをして思はず襟を正さしむるものがある。



中山法華經寺

抑々法華經寺は今より六百七十餘年前、文應元年若宮の領主（今の法華經寺のある所）富木五郎胤繼が一字の精舍を造立して日蓮上人の說法場に當てたのが濫觴で、現今の法華堂は即ち其れである。今は內務省保護建造物に編入されてゐる。

現在法華經寺は全國に二百八十有餘の末寺を有し、信徒檀徒から講社、末社を合せると實に數百萬といふ盛大さで、寒暑晴雨に不拘參詣人引きも切らぬ有樣で、就中御會式、御開張等の人出は何十萬といふ壯觀を呈する。

殊に境內奉安する處の鬼子母神、大黑尊天は崇拜者多く鬼子母堂裡の刹堂には之又參籠者が絕えない。試に以て都人士の一日半日の淸遊には好箇の仙鄕であり。觀光と遊覽の地帶である。

中山法華堂の本妙寺に一宿して

杉の葉やあらしの後の夜半の雪　宗長

駕も同じ宗旨や法の友　鯉昇

中山や狂女もこぞる御命講　子規

東胤賴が途次賴朝に誄進したる和歌

○中山にて夜に入りければ

小夜深く鬼のしこ草ふみ越て

行方言問ふ眞間の浦人

法華堂　法華經堂內本堂の後方にある小丘山が即ち法華寺で往時法華經寺內にあつたのを現在の所に移せしが、日蓮上人巡錫布敎の遺蹟で元富木氏の館址であつた。

泣銀杏　法華經寺境內にあり、五重寶塔の傍、富木入道胤繼殿の乘馬を埋め祠りし小なる駒形堂の邊りで直幹聳え立ち雲際を掠むる大銀杏が六百星霜一日の如く淚を以て當門葉を誡め本化の家風を敎へつゝある哀の形見の名木である。

今以つて本堂の御會式には必ず一門等は此の銀杏に參詣するものと定まつてゐるが、昔は御會式に本寺へ來られぬものあり、し時は病氣に冒され、又往寺の僧侶は寺を追はれ、門葉を失ひ、信徒は離檀を命ぜられたと、現今宗門御會式の盛んなることは、元より大聖人の偉德に依るのは勿論だが、其由來も亦久しいものといはれてゐる。

七經塚　若宮法華寺を東に距る數町の處今參畑のある間、點々と七基の石碑がある是れが卽ち七經塚、傳はる所に依れば日蓮上人が法華堂に法を說く時連日聽講する一女子があつたので、日蓮が怪しみ花瓶の水を注いだ處忽然として姿を變へ、八卷の經文を奪つて逃げるものがあつたので追ひかけると七經は途中に落ちてゐた

が、第八卷のみは北口を距る數十町の一池畔にある櫻の木に懸けてあつたと、姥神の傳說と共に傳はれり後人經を委せられたる地に塚を築いて七經塚と稱されしものが即ちこれである。

姥ケ池　中山法華經寺の北方で姥溝にある、妙正庵の境内に屬す、池の畔りには櫻樹あり老幹が蜿蜒と池面を掩ひ樹齡何百年と過ぎ、池の水と共に古く實に幽邃寂寥の境を呈し、姥神の傳說もさることながら當然といはれてゐる。

史蹟名勝紀念物

明治天皇聖蹟として市川市内に左の二ケ所が史蹟名勝天然紀念物保存法に依り文部大臣から昭和九年十一月二日指定せられた。

市川上出口行在所　市川市市川字上出口三〇七〇番地田中喜兵衞氏宅の玉座及び庭園の一部が、史蹟名勝天然記念物保存法に依り文部大臣から昭和九年十一月三日の市川市制施行の前日指定された、光榮ある行在所なり。當時を左に記述すると、

一、明治六年大和田原にて近衞兵演習觀覽の節四月二十九日御少休、續いて同五月一日還幸の節御少休遊さる。

二、明治八年習志野原及下志津原にて近衞歩兵及び砲兵演習觀覽の節五月二十九日御晝餐、同六月一日還幸の節御少休遊ばされる。

三、明治九年習志野原にて諸兵演習觀覽の節、十一月十六日御晝餐、同十一月十八日還幸の節、御少休遊ばさる、

市川第六天前行在所　市川市字市川第六天前三〇三〇番地ノ一、退役陸軍中將陽元政次氏宅の玉座及び庭園の一部が、明治天皇聖蹟二ケ所の内一ケ所にて、昭和九年十一月二日史蹟名勝天然記念物保存法に依り指定された光榮の行在所である。左に當時の記錄を述べれば、

一、明治十二年習志野原下志津原にて近衞及び東京鎭臺諸兵演習觀覽の節、十月二十四日御晝餐、同月二十七日還幸の節御少休遊ばされる。

二、明治十四年下總種畜場行幸の節七月二日御少休遊ばされる。

三、明治十五年千葉少街附近にて近衞兵演習觀覽の節五月五日御晝餐遊ばされる。

四、明治十五年下總種畜場へ行幸の節六月九日御少休遊ばされる。以上である。

二、神社、佛閣

神社

神社は國家の宗祀にして、神社崇敬の觀念は我日本民族特有の美性なり、今市川市内の神社を列擧すれば各其々由緒深き社傳を有す。其の數又二十有餘を數ふる。

六所神社　市川市須和田（舊國分村）の台地にあり、大巳貴命を祀る、指定神社にして境内は三百二十四坪を有し、日枝神社、胡錄神社、琴平神社、大鷲神社、月讀神社、猿田彦神社、國底立神社、稻荷神社、津世女神社の九社をも合祀せちる、昔は現今の國府台練兵場にありしもので、今でも練兵場内に六所神社の森として森のみが殘されて居る。

人皇第十二代景行天皇の勅願所として、下總一國の總社とされ、里見、北條、千葉の各家は特に崇敬し、種々の奉納を寄進す、其後德川家康公は御朱印捨石を奉納し、七萬餘坪の境内地を献上し、殊に大阪合戰の折には、當社に參籠祈願をこめ、戰勝を得られしより社殿を造營して御禮參りをなせしと、今この本社は實に其の當時家康公の造營にかゝはりしものなり。

日枝神社　市の北方國分に在り、村社にして祭神は大山咋命を祀る、境内には、七五三張公孫樹の木が左右に併立し、枝葉は藝者として碧空を蔽ひ幾百年かを經過せしものなり。

春日神社　市内一丁目大通りに在り、村社にして祭神は天兒屋根命を祀る、毎年十月十九日例祭が行はる。

稻荷神社　市内二丁目市川橋の際にある。無格社にして、祭神は宇賀魂命を祀り、毎年二月の二の午の日に祭禮を行ふ。

胡錄神社　市内三丁目舊市川町役場の入口際にあり、村社にして、祭神は面足命、惶根命を祀る。毎年十月十八日例祭を行ふ。

八幡神社　市内五丁目三本松の處にあり、無格社で八幡の葛飾八幡神社の分祠で應神天皇を祀る。毎年十月十五日祭禮を行ふ。

稻荷神社　眞間の手兒奈靈堂隣に在り、無格社で豐受姫命を祀る、例年十月九日に祭禮が行はれる。

春日神社　市内新田に在り、村社にして、祭神は天兒根命、並に嘗公を祀る。毎年十月十八日を以て祭禮を行ふ。社掌は鈴木城之助氏で氏子總代に浮谷權兵衛、後藤彌五郎、後藤武助、浮谷準太郎の諸氏が當る。

胡錄神社　市内新田にあり、村社にして祭神は面足命、惶根命を祀る、毎年十月十九日例祭を行ふ。

諏訪神社　市内平田にあり、昭和三年七月二十七日指定村社さなる、祭神は健御名方主命を祀り、毎年十月十六日の例祭日と三大祭には供進使が参向せらる神職は宮崎博道氏、氏子總代は杉原半、田内眞盛、中村百助、宮崎銀次郎の諸氏である。

天満神社　國府台飛地の入口にあり、毎年十月二十五日の祭禮には土地の青年等に依つて奇習を行はれ賑やかである。無格者で祭神は天満大神を祀る。

國府神社　國府台手前根本寺の隣りにあり、村社にして祭神は日本武尊、豊受姫尊、菅公を祀る。毎年十月十九日を例祭日とす。

縣社八幡神社　前頁名所舊蹟に詳述せり。

白幡神社　菅野にあり、武内宿禰を奉祀せる村社にして、天正十二年本社再築の記錄あれども其の前は詳ならず、毎年九月十五日の祭典にして、近在の信仰頗る厚し、境内六百七十二坪なり。

八幡神社　八幡地内宮久保にあり、村社にして譽田別命を祀る、文明十八年以前の創立にかゝる、境内に神樹松と稱するものあり、現存するものは其の第二代なりと、其下に文安五年八月十三日信業禪門と刻んだ碑が

ある。此の碑を信業様と稱して參詣する者又多い。

神明社　中山鬼越にあり、村社にして天照大御神を祀る、毎年十月十九日例祭を行ふ。

子ノ神神社　中山の北方にあり、無格社にて大巳貴命を祀る、毎年十月九日例祭を行ふ。

安房神社　中山にあり、無格社、里見安房守義弘を祀る、毎年十月十九日例祭を行ふ。

八幡神社　中山若宮にあり、無格社譽田別命を祀る、口碑によれば、本社は往古一國の總社にして、盛なる大祭を執行せるものなりと云ふ。現今毎年九月十五日例祭を行ふ。

高石神社　中山高石神にあり、無格社にして、神巧皇后を祀る、毎年十月九日例祭を行ふ。

第六天社　中山若宮にあり、無格社天王様を祀る、毎年十月十九日例祭を行ふ。

天神社　中山の北方にあり、菅原道眞公を祀る。

寺院

市川市は、國府時代の古くより戰國時代にまつわる多くの歴史關係から、かなり由緒深き寺院を有し、寺格も相當良い地位を持つ。國分寺を初めとし、總寧寺、眞間山弘法寺、又は日蓮宗大本山のある中山法華經寺等幾多

の巨利、名刹があり、從つて名僧、高僧も多く、國寶ともなるべき寺寶は尚に多い。左に之を列記す。

國分山國分寺（元金光明寺）前頁名所舊蹟の分に詳細あり。

長谷山安國寺 市の東北菅谷字明神前にあり、本尊は十界にして、法蓮日禮上人の開基で日蓮宗一致派に屬し、中山法華經寺の末なり、往古より安置し奉る靈佛は鬼形鬼子母神にて宗祖日蓮大菩薩の御作りしもの、中山法華經寺の靈像とは一木二體のものである。境内は廣莊して巨松、老杉繁茂し靈堂數多あり、信男、信女の參詣で大に賑ふ。

龍珠院 豊山派、眞言宗、國分にあり。

寶珠院 右 仝

東光寺 日蓮宗、須和田にあり。

經王寺 日蓮宗、國分にあり。

竺園寺 臨濟宗、仝

蓮正寺 日蓮宗、曾谷にあり。

安穩寺 日蓮宗、稻荷にあり。

本住寺 日蓮宗、下貝塚にあり。

弘法寺（眞間山）前頁名所舊蹟に詳細あり。

玄授院 日蓮宗、市内二丁目寒室地内眞間飛地にあり。

安國院 日蓮宗、市内一丁目にあり。

龍泉院 日蓮宗、市内二丁目寒室にめり。

龜井院 日蓮宗、眞間下にあり。

總寧寺 前頁名所舊蹟に詳細あり。

種樂寺 眞言宗、一丁目舊市川町役場隣りにあり、住職は有名な宗教育家伊藤敎順師。

觀音寺 眞言宗、三丁目廣小路にあり、境内には里見公の愛馬を祠つた、お駒堂がある。

根本寺 前頁名所舊蹟に詳細あり。

即隨寺 國府臺飛地通稱佐久間塚と云ふ處、福壽山西棲院の後方に在り、淨土眞宗、大谷派であるが、この寺院のある處は殆ど近來他より移轉し來りしもので、信徒には大に受けてゐる、現住職の長尾徹定氏は高德の聲高い。

福寶山西樓院　前頁名所舊蹟に詳細あり。

回向院別院　國分臺の飛地寺院街の處にある、即隨寺と並び大伽藍の建物が、即ち東都回向院の別院である。境内宏壯にして植樹多く頗る景觀に富んでゐる。

同院は又國豊山無緣寺とも稱し、今を去る二百七十有余年前、明暦三年正月江戸の大火で有名な振袖火事の燒死者無慮十萬八千余人を葬る爲に創建せられたもので、時の將軍德川家綱公が痛く此の慘事を歎き且つ憐み、芝增上寺遵譽貴屋大僧正に請ふて、其の屍を聚め是を葬らしめんと本所中島新田に二町四方の寺域を賜ひ、追善供養を營まれしを本院の開墓とし、諸堂舍は輪環極美を施し、江戸唯一の名刹であつた。

次で安政二年の大地震に二萬五千余人の靈を合葬し、最近大正十二年九月一日の關東大震火災は罹災者十有余萬の靈骨をも合祀せられて、全く宗派に超越した全國唯一最大の祈願所として一般から推稱せられてゐる。

泉養寺　同じく佐久間塚の寺院街で回向院別院の先にあり、附近は樹木鬱然として森閑そのものである。一段と高く殿堂が突き出てゝ居る所之が即ち天台宗の名刹の泉養寺にて本寺は阿彌陀如來である。本寺はもと深川にありし古刹であつたが彼の大震火災に依り堂宇を全燒し烏有に歸せし爲、昭和三年八月此地に移轉せしものにて、境内には有名な深川の開祖、深川八郎右衞門氏の墳墓あり、往時深川にある頃は蓮華の名所にて風流人の杖を曳く者多く、殊に俳聖芭蕉翁も屢々同時に來て逍遙せしを以て觀蓮精舍の稱ある、又同翁の碑も建

立しあり今尙同寺に存す。

本寺は又永く深川常磐町神明神社の別當であつた。それは開祖八郎右衞門氏が或年洪水の折に流れ着いた木の箱を芋洗ひにて掬ひ揚げて開き見ると、後水尾天皇御親筆の「天照皇大神宮」の御札であつたので、それを祭つて神明神社を創立したものであつたからである。故に當寺は芋洗を定紋とす。由緒ある深川家七代目高顯院德功惠觀居士といふ、士僧の代に無緣となつた。それは此德功惠觀居士は一代の豪快人物で、當時町内一同と大達と稱する豪士との間に爭ひを生じ容易に解決しなかつたが、遂に町内の犧牲となつて入牢したのである。その後子孫も離散し寶暦、昭和年間より五十年ばかり無緣となつてゐたが、文化五辰年に廿七ヶ町の有志の發起により七代目の五十年忌法要を盛大に營まれ、爾來例年この法要がある。

神明神社の別當々時は常磐町にあつて無量院泉養寺と稱したが、元祿四年に本村町に移轉し、昭和三年八月七日市川市の現在地に再移轉したものである。現住寺は廿一世海老原廣謙師で博學識見高僧の師である。

不動院　菅野にあり、京成電車菅野驛を下車して北へ六丁御代の院より二丁先きの處に在る。山王山と號し、眞言宗新義派にして、葛飾町山野延命院の末寺で不動尊を本尊とする。人皇　六十一代朱雀天皇の天慶二年將門の乱あるや、不動明王を護持して此乱を平定したといふ事は能く人の知れる處で此時寛朝僧正が平生護持せられし、成田不動尊と同木月作の明王であるといふ、後六百五十餘年豊臣秀吉關東下向の折祈願ありて

寺領を賜ひし記錄も今にして尙殘る。然し安政五年祝融の災に遇ひ寶物記錄の失はれしもの非常に多いが、獨り本尊御影の版木尊體は燒けすに殘されてより、以來火防の不動として歸依する者が益々多くなつた。

高圓寺　宮久保にあり、日蓮宗にして日高上人の開基。

所願寺　日蓮宗、宮久保に在る。

頂圓寺　右と同

東昌寺　曹洞宗、八幡下宿にある。

中山法華經寺　前頁名所舊蹟に詳細あり。

法華經寺地內の寺院　清水に淨鏡坊、蓮行坊、本行坊、清松坊、陽雲坊、淨光院、砂原に本妙坊、谷中に善進坊、正善坊、池本坊、玉樹坊、智泉院（塔中）安世院、延壽院、和泉に本行院、裏門に法宣院等あり、寺內は古書畫、古文書が多く藏され國寶となれるもの數點あり、其他著名の古器物も亦多い。

泰福寺　高石神にあり、日蓮宗にして、弘安二年寂海法師の創立になる。

淨然寺　同地、同宗。

常開寺　鬼越にあり、日蓮宗にして安應七年法華經寺三世日裕上人の開基。

法見寺　北方にあり、日蓮宗にして、應永二十七年法華經寺六老僧の一人たる、日躍上人が、中山の領主太田乘明草庵の蹟に梵字を創建せしものなるのなり。

妙正寺　北方にあり、日蓮宗にて、建長六年日蓮上人中山法華堂に法を說けるに、日毎に聽聞する婦人を認め、之に授くるに、厄疫守護の傳を以てし、妙正の號を與ふといふ。世俗姥神と稱するは是にして天然痘流行の際は特に賽客多いといふ。

神明寺　中山法華經寺を中心として總て日蓮宗のある處に只一つの眞言宗の存在地で鬼越にあり。

三、遊覽と娛樂

觀光の市川

江戸川の川一重で大東京市と千葉縣の關門である、新興都市市川は對特し、煤煙と塵埃にまみれた都人士にとつて最も良き手近な風光、閑雅な風致地帶として保健衛生上に親しまれ、且つ名所舊蹟の觀光地として來往激しく、恰も大東京の郊外の如く感ぜられてゐる。而も東京に近いにかゝはらず、其の獨特の風物によつて遠く離れ

た旅に出た気分にもなつて、ゆつくり日れもす市川市街で心身を洗ふ事の出來得る都會人にとつて先づ何處が一番多く見られ、又樂しまれる事であらうか。

汽車、電車で江戸川の鐵橋を渡る前、遙か左窓に映る臺地の鬱蒼たる處、白浪を蹴つて流るゝ江戸川の清流は共に車中から刻まれる第一の印象觀である。

殊に江戸川の春は雅やかな中にも、延々長堤數里の間が殆ど櫻樹にて植され、爛漫と咲き誇りし時は得も言はれぬ景觀を呈し。水と陸との光彩は斷然好一對を現はしてゐる。

又土手の綿草は適しピクニツクの群れ集ふて清遊するに頁く、太公望の釣場所に、夏の日の涼風を浴びに納爽と吹く河風は又となない格別味があり、四季を通じて保健に遊覽に可ならざるはない。

これより川は下流に沿ひ國府台の崖下を洗ふ、斷崖二十米の丘陵は屹然と聳え立ち、松籟の音がそゞろ古戰場の昔を呼んでゐるが如く、哀律韻々としてこだまする老松古木の覆ひ茂れる綠林地帶は都人士にとりては慥に幽境地の感をいだかしめる。川と山、斯うした大自然の包擁の中に生々した潑溂たる躍動振りを示す。市川市街は更にいふも可なり、交通と經濟に惠まれ、又花柳界の發展を期し、美妓數百の陣は蓋し酒宴の花と咲き料亭の佳實として時に旅人の勞も慰し、觀光と娯樂に又と無い接伴を與へ、おしては花街の殷盛が街衢の先達となつて音頭も賑やかな花見踊りに納涼市川への誘引に其々變つた趣向で迎客に對してゆく。更に斯うした雰圍氣の中から

種々樣らしい、史蹟と名所を探ぐるに無駄はなく、かなり多くの資料も得られる。例へば眞間の繼橋、眞間の井に昔手兒奈が數多くの悲哀とロマンスを殘し、入江に身を投じ果てたと云ふ、傳說なども、今は後人の安產の神として四時參詣客が絕えれば、御利益を乞ふも頁く、又一段高き眺望見晴し頁き眞間山弘法寺に古事を探れるも頁し、廣莊たる境內は、老櫻奇楓や腹這ひの松片葉の葦や龜の井、長くも今上陛下未だ皇孫にておはしませし、明治の御世に、龍駕を當寺に進ませ給ひて、二葉楓のほとりに記念の楓樹を御手植あらせ給ふ、こゝ幽神の境、信な練り、古事を偲ぶも佳し、又中山法華經寺境內に讀經の誦を聞いて、森々と閑雅の中に暫し遊ぶも、慥に精神的慰安の靈場であり仙境にゐるの感を深からしめる。

斯く親じ來りて見れば都人士にとつては以上の地域が最も親しみ、望まれるところであるが、尙之を四季に通じて春を讃しみ、樂しまれる所が殊更多い。然し避暑地としての市川、避寒地としての市川は都人士にとつては又捨て難い場所である。

その一々を記述する迄でもなく、都會の煩鎖と穢れたる空氣は清快なる市川とでは白と黑との相違で保健衛生に適し、風光に惠まれた處、正に仙鄕と言はすして何をか言はんやである。

市川市の主な年中行事

△一月十日野菅一、七聯隊の入營

△二月十日中山法華經寺大國講會
△四月八日から二日間眞間手兒奈祭
同　十五日から法華經寺千部會
△八月七日法華經寺靈寶虫拂初句
同　市川の花火
△九月十五日から十日間八幡神社の例祭同農具市
△十月九日手兒奈堂秋祭
△十一月十五日より法華經寺御會式

競馬場

市川競馬場　省線市川驛より南行德田甫に向つて十町、京成眞間停留場よりは約十二町共に自動車の便ありて、春秋二期催さる競馬は中山競馬場より時に人出が多く、沿道は乘合自動車等が延々長蛇の列をなし頗る盛觀を呈し、自動車道路は到底歩行困難なるも、最近は別に人道が設けられ、ゆつくり無難にて行德田圃と江戸川より來る河風に吹かれ競馬場へ容易に行くことが出來る。

同競馬場は昭和六年十二月千葉縣畜産組合聯合會の創設にかゝはるもので、實に三十町歩からある廣大なる草競馬場で一面芝生を以て敷かれ、競馬ファンに取つては正に好適なる場所である。

中山競馬場　省線中山驛より十八町乘合自動車で十分徒歩にて廿分、一方京成中山驛よりも下車して法華經寺を超えて行く近道もあるが、每年春、秋二期の競馬季節には京成中山驛と葛飾驛の中間に競馬場前臨時停留場が設けられ、競馬ファンの便を充してゐる。殊に最近京成電車連絡乘合自動車があつて頗る便利になつてゐる。東洋一を誇る同競馬場は農林省公認日本の大競馬場の一つで宏莊なるスタンドと優雅なる音樂堂があり、每年春、秋催される競馬は全國ファンを熱狂させる。千葉縣唯一の公認競馬場であり、市川市郊外の名所でもある。

活動常設館

松竹館　松竹直營只一つの常設活動寫眞館で不絕優秀なる畫面と妙なる音樂を吹奏されるので觀客には非常に受けが良く、しかも料金も時々大衆奉仕で開放されて、人氣が良い上に場所は新田で國道より少し中へ入つた周圍廣莊なる處にて看板等を見るにも又危險はなく誠に好適の位置にある。

三松館　日活直營の映畫館にて五丁目三本松前、或はこの名前を取つたものか、宏壯なる建物で國道に面して實に堂々たるものである。每週日活封切りさまでいかぬとも斬新な映畫を提供するので觀衆に受けが良

く、東に松竹、西は日活と競爭の位置にあり、市川市の娯樂機關として又大に重寶がられてゐる。

花柳界

東京近接地の花柳界として、高尙で氣品のある、料理店と藝妓が揃つておる點では、千葉縣の何れの土地の花柳界よりも、たしかに發展し、あかぬけてゐる市川市の花街は、國府臺、眞間、中山の各三業組合に別れ、大小の藝妓は五、六百人、藝妓置屋が六十四、五あり、料亭は五、六十は優に散在し、其々特徴ある建築と御座敷を備へた、東京市內にも稀に見る宏莊なもので廣々したる庭園は景趣溢るゝばかりの趣向がめぐらされ、實に堂々たるものである。

されば東都より來る紳士、紳商連は自動車で或は雷車、汽車で乘りつける者も多く、從て花街は之等の客等に依つて相當繁昌するやうであるが、殊に市川市の觀光を探勝する遊覽客等も江戸川畔にある眺望佳き料亭へ足を止め、新鮮な川魚料理に舌づゝみを打つなど、興趣至る處に湧き、絃歌の音も賑やかに、不景氣風も何處吹く風とばかり不斷に繁昌を見せてゐる。

市川音頭

平山蘆江作詞
杵屋東三郎曲

桃にさくらにもみぢに月の、眺め市川
　　イシヤイヽコダ
鴻の台　ハアヤツチヨルネ

○

國分こうのだいラツパで起きる
わたしやお前の　イシヤイヽコダ
名で起きる　ハアヤツチヨルネ

春

春は中山、法華の太鼓、梅に鶯
　　イシヤイヽコダ
ほうほけきよう　ハアヤツチヨルネ

夏

水の市川、靑葉の國分、こひの中山
　　イシヤイヽコダ
氣も八幡　ハアヤツチヨルネ

秋

秋の眺めは江戸川堤、月に黃金の
　　イシヤイヽコダ
稻の波　ハアヤツチヨルネ

冬

水戸の隱居は、八幡で迷ふ
　　イシヤイヽコダ
雪のこたつで、手が迷ふ　ハアヤツチヨルネ

御琴三味線
菊屋樂器店
加藤綱五郎
千葉縣市川市眞間電停下車
東花亭前
電話　市川三十七番（呼出）

國府臺三業組合（電話市川一二六番 五三四番）

料理、旅館

市柳	電話	二二〇番 五一番
伊勢金	電話	二六二番
井筒屋	電話	一〇六番
華の江	電話	四五五番
田甫	電話	二四三番
高砂	電話	一七四番
中藤	電話	三二四番
鴻の字	電話	三六三番
鴻月	電話	二〇六番
榮樂	電話	五三一番
江戸川園	電話	四三三番
更志奈		

藝妓屋

一松家	電話	五七九番
春の家	電話	三六〇番
初春の家		
千代柏		
分中村	電話	四三番
柏家	電話	五三番
竹の家	電話	五五三番
中村家	電話	三九番
藤久廼	電話	四〇一番
櫻川	電話	一二六呼
清三筋	電話	一七八番
金中村	電話	五〇四番
吉柏家	電話	二一番

鈴むら	電話	五二八番
壽し要	電話	七八番

眞間三業組合（電話市川五七番）

料理、旅館

一直園	電話	一〇八番 三二八番
林屋	電話	四六番
栃木屋	電話	七一番
東花亭	電話	三七番 一四九番
長水	電話	三四番
万屋	電話	一一六番
大松	電話	六六番
淡々亭	電話	四三八番
新久本	電話	三〇五番
新柏家		

藝妓屋

藤本	電話	三〇四番
品菊家		
喜音家	電話	三七六番
若行		
瓢	電話	三三七番
喜利家	電話	三四三番
富美の家	電話	三二一番
富村	電話	六四四番
千代本		
富機本		

福の家　電話　一三二番
北邑　電話　六九番
小松園　電話　三八番
松桃園　電話　三〇番
松雲閣　電話　二三一番

中山三業組合（市川市中山　電話北八幡一〇番）

料理、旅館

千鳥　電北八幡　三七番
上角庄　〃　一二七番
金福　〃　二二七番

東川
常磐
若松家
金大和
菊ふじ
立花
米本

藝妓屋

吉田家　電北八幡　七二番
清井筒　〃　三一〇番
桝角家　〃　一一〇番

瀧田屋　〃　二三六番
中角庄　〃　四〇番
中山莊　〃　三〇六番
琴月　〃　二二八番
妙泉閣　〃　一一九　二一七番
三桝屋　〃　六三番
美登里　〃　一六四番
松鶴　電北八幡二〇六番
森田屋　〃　三五番
黒門バー　〃　一〇番（呼）
芳本
白濱屋
壽美家　〃　二二四番
春梅

梅の家　〃　二六七番
梅本　〃　七番
壽々本　〃　三一六番
福田家　〃　二五〇番
豊の家　〃　二四二番
君の家　〃　二〇一番
壽　〃　二〇三番
新靜本　電北八幡一七六番
一富士　〃　三〇〇番
米本
新壽　〃　六九番
福井筒　〃　一七六番（呼）
東家　〃　三三三番
新玉家　〃　二四二番

舞踏場

市川ダンスホール　夕暗迫ると、東京千葉間のアスファルト國道は車馬と行人の交錯で一時はかなりの雜音が起り一大交響樂が奏でられる。

市川橋から約一丁の處舊市川町役場寄り國道に面し、市川ダンスホールと記した、二階建廣壯の白壁館がある。その雜音の中に交つてジヤズバンドから流れ出る華やかなメロデーは行人をして暫し、夢の世界に引き入れ、陶酔させ知らずステップを踏ましめる。

ホールは花に例へれば、コスモス、カアネーション、チユリップ、チエリー等々卅名のダンサーが揃つて、紳士淑女の好對手として若鮎の如く潑溂として踊つてゐる、經營主は、佐古氏、石井喜代太郎氏、恩河支配人等の手腕家揃ひがえに當り、市川市の娯樂機關の代表的存在として正に都人士間に評判が高い。

産業篇

一、農業

農産物

新興都市四方市民の御台所を扱ふ農産物は概して豊富でわけても、米、麥、野菜、果樹等が就中多く、野菜類に至つては大根、里芋、葱、漬菜、甘藷等の新鮮物が多く產出され、市川市内のみならず近郊大東京都の臺所に迄之等新鮮なものがどし〳〵供給され其の一ケ年間の需要高は莫大な金額を上げ、農產物の販賣では最も優良な成績を示してゐる。

その他果樹等に至つては八幡梨の上物が生產され、新鮮な野菜と共にどし〳〵東京方面へ移出される。又いちご、桃等も產出多く、有名な桃園は八幡の京成電車沿線にあり。いちごも最近は清水物を凌駕する上物が澤山出る。

米、麥等の產出は何と云ふても舊國分村一帶の純農地で、地理的に云へば市川市街の東北部門より須和田方面の中間にある沃田からは年々優秀の米が收獲され、畑地から小麥、大麥等が生產される。

この附近は兎角地主と小作人との圓滿なる協調がとれ、機範的部落を構成し新興市川市の前途には喜ばしき現象を呈出して益々自力更生を以て進んでゐる。尚園藝、草花、葡萄等も盛んに栽培せられ、東京方面へ出されてゐる。

以上述べた如く、米、麥、野菜、果樹等の農產類が最も著しい生產高を示し、大市川市の發展には力強い經濟を荷負つてゐる。

畜産物

畜産物は家畜、家禽類が主で、殊に家禽類に至つては養鷄組合のある處よりおして、最も盛んである。

須和田地方の養鷄は近來移住者等の間に盛んに飼育され良好な過程を上げてゐる。從て理想的な構造の鷄舍は養棟もあり、大低少いものでも、五十羽多いもので數百羽飼育しごし〳〵新鮮な卵を市内外に或は食用の肉を各地に供給して其の一ヶ年に及ぶ額も相當な成績を示してゐる。今や農家の副業として之等養鷄の飼育は各方面に行はれ優良なる改良種をつくる事に懸命であるが、將來は一層地理的關係からこの種事業の發展性は只々農家の副業のみに止らず、文化住宅地として新興市川市の發達に伴ひ益々增加して行く傾向を示してゐる。

又鶩等の飼育もあるが之等は僅かにして數字的にも示す程でない。

一方家畜類に於ては養鷄程盛んとは云へぬが、牛、豚、馬の順序で牛の飼養數最も多く優良なる牧場も數多く概ね乳牛として、新鮮なる牛乳を市内外に供給してゐる。

現に國府臺方面には個人經營で百數十頭の牛を飼養し優良なる種牛も相當飼はれてゐる。又八幡、中山方面にも廣大な牧場を持つて各數十頭づゝの牛を飼養してゐる。

牛乳搾取場　營業者數　十八戸

現在右之業者を以て東葛牛乳畜産組合が構成されてゐる。

其他養豚等も個人的商賣方面にて飼養する處多いが、就中農家の副業としては國分方面が多く飼養され、大概は市場に供給してゐる。

馬は農役用、運搬用、蕃殖用、乘用、其他であるが、概して運搬用に飼養される向きが最も多く次に農役用として飼養される程度である。之等家畜類は總體的に於て良好の限度を示し、漸次飼養者も增加する傾向をたどつて市民の食用に需要を滿して居る。

農會及組合

市川市農會　農業の進歩と改良と發展の指導機關として市川市役所内に設立され、不絕農家の福利增進に當つてゐる。農會の設立は古き歷史を持つて居るが、今回新興市川市の實現に及んで四ヶ町村合併の市農會が生れ、從て會員も數百名を超え、會長には前市川町農會長であり、人德識見共に秀れたる浮谷權兵衛氏が要職にある。

市川養鷄組合　同業者間の進歩向上を計る爲、且つは融和親睦を企圖する上に、各同業者間に於て組織されしもので三丁目の淺賀養鷄場、笹塚のあさひ園養鷄場、眞間山麓の日の出園養鷄場、眞間の市川養鷄

場等その他數名の一團を以てなる。

東葛牛乳畜産組合　之亦同業者間の改良、研究等をなす組合で、範圍も東葛一圓に及ぶも市川市内が主に組合を牛耳り現組合長一名副組合長二名、監事一名を以て組織さる。

二、工業

我が國の機械工業は漸次世界的躍進を遂げつゝ、其の精緻なる機械と優秀なる技術は、今や國産品時代を現出し、産業日本の大發展振りを示してゐる狀態である。

殊に非常時々代に於ける科學の進歩は一に化學工業に依る處多く、從て工業の發達は文化の泉ともなり、經濟に學術に總ゆる方面に發展性を注入してゐる。

この點新興市川市は産業都市として大東京市の玄關にあつて、多々益々工場の充實に産業の一樞軸を示して年々各工場から擧げる製産品は莫大なもので、其の蒙る到益も實に甚大なものである。就中實酒造の燒酎、味淋、中山の共立モスリン、菅野の日本パイプを始め。田中喜兵衛氏の醬油、中村勝五郎氏の味噌釀造、小澤眼鏡工場葛他瓦斯、東京毛布、東京精鍛工所の銅瓦板等十指を折ると雖もその他幾多の工場はあり、縣下稀に見る工業都市を誇つてゐる。左に各概要に就て列記する。

醸造業

醸造は實酒造市川工場の燒酎が最も産出量多く、最近に於ける全工場の數量は二二、二一一石（價格一三五九、九四〇圓）と稱され、同じく味淋の數量五、七七〇石（價格四六一、六〇〇圓）更に本直し五、六六三石（價格三九六、四一〇圓）は共に同工場一ヶ年間の醸造高で其の産額も亦莫大なるものであるが、吹に中村味噌醸造所より製造される六一七、八九〇貫（價格二〇九、八五四圓）と田中醬油醸造工場の製造する三四六九石（價額一〇七、八五二圓）の數量は主なるもの其の他酒、醬油納の四七、〇〇〇貫（價格二、九五三圓）及び白酒の二九一石（價格二四、七三五圓）は實酒造と田中醬油の兩工場より産出されるが、利益も相當なものである。

本市に行はれる醸造業は大體右の内に於て多く産出され代表的なものと稱されるが、その他八幡の川上醬油工場中山の松崎醬油醸造所より産出する數量も亦相當なものである。

紡績及機械工業

本市に於ける紡績及機械工業は概して盛大にて頗く發達され。わけても紡績事業として、共立モスリン中山工場の規模と設備の完全なる事は大東京にも稀に見る廣大なる地面と工場を有し、男女工も三千人を使備すると云

ふ大工場であるが、同工場の最近壹ヶ年間に於ける製造高を示せば、左の通り

	數量	價格
トップ	三五七九、八六六瓩	一二、三〇六、五八三圓
毛糸	同 二六五七、二五八瓩	同 一〇、八一六、三八二圓
紡績屑	同 八九五、六九七瓩	同 二五四、一五八圓
羊毛脂	同 八五、七八五封度	同 二、五七三圓

其の他東京毛布の最近一ヶ年間の數量一、六一四枚、價格一三、八六六圓。谷岡染物工場に於ける捺染物等は顯著なるものであるが、機械工業の進歩も亦誇るべきものがある。日本パイプ製造株式會社菅野工場にて製造されるパイプは飛行機用として海軍省へ收める程規模も廣大で職工、技術者等數百人からゐる。又東京パイプ製造所のパイプ類も東京各會社へ注文でどし〳〵製造されるだけに設備も完全し數多の人員が揃つてゐる。

尙合資會社兄弟ゴムタイヤ製造所、市川製氷工場等の機械工業等數あるも一々枚擧するにいとまがない程本市は工業方面に發達し躍進を遂げ、工業都市市川の感がまことに深い。

工産物

工産物は勿論工業の發達につれて少くないが、一々之れを列擧するのは避けてその中の主なるものたけを左に

數字的に揭げる。

種目	製造戸數	職工數	價格
金屬製品	一三	一三八	四七八、一七八圓
眼鏡緣	一	九四	七〇、九三一圓
木製品	七	二八	三五、一八〇圓
被服及附屬品	一六	二九	一〇、一七四圓

諸工場、會社要覽

東京銅瓦板製造所改稱

合資會社 東京精鍛工所

同所舊は名稱を東京銅瓦板製造所と稱し菊富士銅板を製造し來れり。昨年より新規事業としてドロップフォー

（東京精鍛工所工場全景）

ング、自動車、自動三輪車、兵器、艦船、航空機等の部分品、諸機械火造及仕上製作を始め工場名も東京精鍛工所と改稱せり。

位置は市川驛の南方三丁に在り、工場敷地九百餘坪、從業員五十餘名、一ヶ年産額五拾餘萬圓にして尙逐年增加しつゝあり。

同所の製造になる專賣特許菊富士鋼板は三百年前より全國の由緒ある神社佛閣等に於て盛に使用され一般に銅瓦板と稱し數年前迄は人工手打ち製作法に依り製造し來りしが同所に於て多年研究の結果機械力に依り優秀なる製品の大量生産に成功し在來の銅瓦板の稱呼を改め菊富士鋼板とせり。

菊富士鋼板の品質優良にして建築用材としての必要條件を具備せる點は他の鋼板の追從を許さざる所にして近來鋼板の一般化と相俟つて菊富士鋼板も全國に普及され市場に產出さ

れつゝあり。

東京震災記念堂、鶴見總持寺、池上本門寺、鎌倉建長寺、千葉市宗胤寺、市川市中山法華經寺、東京深川八幡宮、水天宮牛島神社、龜戸天滿宮等の神社佛閣の屋根は總て菊富士鋼板葺になり、邸宅屋根としては德川伯爵邸、松平侯爵邸、三井男爵邸、大倉男爵邸等の屋根葺に其他一般住宅、店舗化粧張等に於ても盛に使用されつゝあり。

共立モスリン株式會社

（市川市南一二〇四）

市の西寄り、省線中山驛より市川驛に向つて左側線路際に廣大なる建物と中央に大煙突が高く聳えて見える中山共立スリモン株式會社中山工場は、資本金全額拂込の四百萬圓、株式總數八萬株と云ふ廣大な資本を有し、社長川西清司、專務高野吉太郎、取締役兼來市松、同片岡敬吉、監査役毛戸勝元、同鎌田正明の諸氏を特つて社の陣容を固めてゐるが、就中社長川西清司氏の父川西清兵衛氏は有名な日本毛織株式會社社長で大株主である。如何に會社の存在が强固で、隆々たる社業であるかは、雄飛する事業の一端を知つても明かなる事象で、（前頁紡績及機械工業の部にある）男女工三千人を使傭し、機械器具に至つても莫大なる巨費を以て購入せると云ふ成巧な機械が數多あり、優秀な技術者等を配置して實にモスリンは中山工場を以て優良なものが製造されると云ふ狀

醸を醸し、日に増し進歩を見せてゐる。

小澤眼鏡工場

倉繰市川鼠際の五丁目砂河原に文化的大工場を有する。同工場はロイドと金張り眼鏡枠を製造し、最近商工省から優良國産品の指定を受け東洋に於ても唯一の眼鏡工場と稱さる。尚數種の特許を受け、遠く日本全國は勿論、南洋、印度等の海外地まで輸出をなし、その一ケ年間の製造高も莫大なものを挙げ、職工は男女工共併せて百數十人は使用してゐる。

小澤信工舍製作所（市川市眞間一二〇四 電話市川 二五八番）

同所は創立昭和八年十月で、本社は東京市本所區厩橋三丁目に在る、主としてライター、シガーケース、金属、雑貨類を製作し東京方面へ販路を有し一ケ年間の出荷は莫大なるもので、從業員は現在男女工共六、七十人を使用する。經營主小澤久信氏は有名な小澤眼鏡工場主の實弟にして、誠實實直の士で、有爲の青年實業家である。

株式會社 寶酒造市川工場

同社はもと帝國酒造株式會社と稱して蜂アドー酒の近藤系の會社であつたが、京都伏見にある寶酒造に買收されて、同社經營の市川工場となり、燒酎及び味淋を製造し、全國的に需要多く、寶燒酎並びに寶味淋のレッテルは余りにも有名でその芳香美味は實に例へ様もなく最近又寶ウヰスキーの製造も行はれ、品質優良の點に於ても頗る定評あり製造高頗る多し、倉繰市川鼠路際江戸川畔に接した大工場の敷地は廣大なるもので、蓋し市川市内に於ける中山共立モスリン工場と併び東西の大觀といふも萬更でない。

倉工場長は有名な学から造る燒酎論文で博士になつた日本唯一の燒酎理學博士加藤辨三郎氏である。

田中醬油醸造工場

三百年の古き歴史にかてゝ加へ上星印の品質優良と美味なる事は普く膾炙されてゐる同工場は舊屋家と稱し田中喜兵衛氏個人の經營になるものであるが、一ケ年間の醸造石數も六、七千石内外に及び巨額な金高を挙げてゐる。

一丁目市川郵便局通りに工場を有し、規模も廣大で、市川橋の袂からは同工場の全景と大煙突が見えその盛大

さはおして知れる。

販路は就中東京方面に多くして有名な日本橋の四分から市内外に供給して、所謂三印より遙か逸品である所より各方面の需要家は頗る多い。

中村味噌釀造工場

舊代より確固不拔なる味噌釀造業で世間に有名な中村味噌釀造所は、中山鬼越の東京、千葉間の國道に沿ふ廣莊なる大工場を有し、壹ヶ年間の釀造高は六十一萬七千八百九十貫と云ふ莫大の味噌を製造してゐる。

販路は主に東京方面に多く、縣下にも廣く取引をなし、味噌の品質優良と榮養價に富む點と價格の廉價なる事は定評で、家庭に愛用多いのも又此の點に認められる所で、絶對他品の追隨を許されない、尙同工場は直接東京へ配達し、毎日數回往復してゐる盛況で縣下に於ても釀造高は風指の方である。

東京毛布株式會社

同社は大正七年十一月の創立で資本金壹百萬圓を有し工場は江戸川畔を背にして堂々たる建物、同工場の中央に聳ゆる大煙突からは不絶朦々たる黑煙が吐かれ、その盛大を伺へる。

主として製紙會社用の純高級毛布の製造として全國に知らる、尙家庭用毛布（フルト）も製造し、一ヶ年一萬七、八千枚を擧げ、その產類も十萬圓近くからの金高に達す。同社の專務取締役は川村桃吾氏が司り、支配人藤齊氏と共に社運興隆の爲全力を盡くし黽勉良くこに當つてゐる。

東京パイプ製造所

一丁目に廣大なる土地を有し、前田市太郎氏の個人經營になるもので常に優秀なるパイプを製造してゐる。

日本パイプ管野工場

國府臺女學院の隣接地に大工場を有す、主として海軍省飛行機用パイプを製造し職工數百人を使役してゐる。

葛飾瓦斯株式會社

同社の創業は大正十二年に始り、專ら瓦斯工業發展の爲努力を盡くし、市川市內外に營業區域を持ち、需要家數五、六千戸に達し着々好況の業績を擧げ、殊に副產物のコークス產出量は五十二萬七千余斤、コールタール百七十石を出し躍進に躍進を見せてゐる。工場は目下新田、石代と船橋町海神とに二ヶ所を有し、本社は京成電車眞間停留場際に在る。

現在同社の采配は專ら浮谷權兵衛氏が之に當り、鍊達堪能の土小川支配人が女房役として社業經營に努力して

ゐる。

三、商業

商業地

大東京都に接續せる關係上物資の圓滑は極めて良く商品の優良化も漸次各商店間に叫ばれ、需要家の購買力は多く、從て大、中、小の商店は競ふて商業知識を向上發揚し、店舗の改良等も行ひ美觀を呈し、益々發展の途上にある市川市商店街は一面商業都市としても充實され耳ならず幾多の會社、工場等もあれば自然圓滿なる需要供給も發達し一大躍進を遂げてゐる。

殊に九丁目から三本松邊にかけて大通りは商店軒を竝べ最も賑やかであるが、更に遂次東進して八幡方面は市の中心地帶として市川銀座を出現する事は蓋し遠き將來でなく、省線八幡驛の開設と相俟つて市役所の新廳舍なり一大發展を見る事明瞭である。

斯く市川市街の商業地は又各々組織だつた會のもとに都度聯合賣出しを催すなど不絕優良商品の廉價提供を行ひ、需要家の人氣を背負つてゐるが、就中之等の主なる商店に依つて組織せらるゝ會は數あり、根本には根本共榮會なるものあり、根本の一部と一丁目の一部の櫻土手に市川發展會があり、一丁目と二丁目との商店は之と稱

する會はないが年に數回の聯合賣出を行ふ。三丁目には廣小路と第六天前との各商店よりなる進廣會、四丁目の各商店によつて組織せられてゐる商榮會、五丁目本通りの有力商店よりなる商和會、眞間大門通り踏切際の勉强商店よりなる大門會、三本松から新田にかけての三和商會、新田を大に盛にしようと云ふ、新盛會等の諸商店聯合會がある。

更に之等を統一した市川商工會があつて一團となり、會員の融和親睦を計つて利福增進擁護の爲活動してゐる。

團役員は會長庄田敏氏、理事長北澤甲吉氏、名譽顧問本多代議士、浮谷權兵衛氏、浮谷市長、中村勝五郎氏、後藤仁助氏、田中喜兵衛氏、塚本淸三郎氏の諸氏である。

有限責任 市川家庭購賣組合

創立は昭和五年七月現組合長横田信四郎氏他二、三有志の發起で組合員組織にて一口の出資額二〇圓を以て所謂產業及び經濟上の必要品を買入れ、各組合員へ賣却する目的のもとに成立し、尙市川市の物價調節を企圖して消費組合の合理化を計るを主眼に生れた强固なる組合、現在組合員は二一九名、役員は組合長理事一名、專務理事一名、理事二名、監事一名である。

金融機關

本市の金融機關として揚げるものは銀行二、無盡業三、信用組合二で共に之等は產業開發の爲其々獨自の活動

なしてゐるが、左に之等機關の概要を述べる。

千葉合同銀行市川支店　本縣の銀行事業として最も卓抜なる成績と一大勢力を繁殖させたる株式會社千葉合同銀行は縣下に六十五ヶ店の支店網を充實し産業開發の爲貢獻して余す處ないが、同支店は其の內の一ヶ所として昭和三年五月舊市川町役場前に創立し今日に及ぶ、現在は專ら市川市商工業者との取引多く從て預金高も頗る良好で確固たる基礎のもとに磐若として金融界に躍進してゐる。

川崎第百銀行市川出張所　本邦銀行界の權威として最高峰にある川崎第百銀行は又千葉縣金融界の爲にも大に氣焰を吐いでゐるが、縣下に八ヶ所の支店を有し、市川出張所は其の內の船橋支店管轄にて大正十五年十二月始めて市川蕨兵隊前に創立せられ、繼いで昭和四年十二月現在の五丁目へ新築移轉し堂々たる川崎系の建物の中に專ら堅實本位の營業を行ひ信用を博してゐる。近く同所も支店に昇格し市の產業開發の機關として努力するもやがて遠き將來でない。

國民共濟無盡市川出張所　本社は佐原にあり、昭和九年船橋出張所より大部分を市川出張所と合併して、一丁目の元東萬銀行跡へ移轉し、營業網を市內は勿論東京市迄擴張し、殆ど現勢力は同處張所に集中されてゐると云つても差支ない程、躍進に躍進を遂げてゐる。從て契約高も二百萬を突破し加入者も增加して尙拳は大に擧がり業績頗る良好で庶民金融機關の最高峰として最近愈に信用を博し、社業大に見る可きものあり。

殊に現社長遠山七郎氏は、無盡業界の麒麟兒として夙に定評のある人物、尙其の他同出張所には有能の人材が多い。

共榮無盡市川出張所　本社は東金町にあり、無盡界に於ける年數は未だ新しいが不撓不屈の努力は最近特に業績を擧げ、千葉市を中心に、縣下の出張所は一大飛躍を遂げ、契約高に、加入者數に於て益々增加し、寧ろ古い無盡會社を壓倒せん勢ひにて、社業著しく好轉す、就中同出張所は市川市內に相當根强き信用を得、商工業者の支援を有し庶民金融の爲大いに爲すところあり。

現在出張所は五丁目省線市川驛附近の宏莊なる處に事務所を有す。

千葉無盡市川出張所　本縣に於ける當初の無盡會社で創立は大正二年現在千葉市に本社を有し、契約高も加入者數も斷然頭角を表してゐるが、往年の勢力程なきと云ふも金融界に貢獻せし事は大に認むべき處で殊に市川に於ける出張所の業績は顯著なるものがあり縣下各出張所中の白眉と稱され、主きをなしてゐる。現出張所は新田三本松通りにある。

木原責任市川信用組合　當組合は昭和三年七月の創立にかゝり、創業日尙淺きも脇々旭日昇天の勢ひを以て大發展を遂げ、商工業者の最大金融機關として、市川市にはなくてはならない、所謂庶民銀行とも云ふべきもの工共の存在は確固たるものである。

◎組合員の加入拂込みは一口金貳拾圓で加入の月は貳圓の拂込みをなし、後は毎月壹圓宛拾九ヶ月拂で一人につき五口迄を最高限度としてある。但し加入者は市川市民に限り獨立の生計を營んでおるものは誰でも差支ひなく極く便利な手續方法にて借金も出來、貯金も亦出來る等誠に便利な民衆的金融機關である。現在組合の役員は左の諸氏である。

組合長理事　石井靜
理事　宇田川祐藏
同　皆川常吉
同　岡澤是平
同　後藤仁助
專務理事　北澤甲吉
同　前田朝吉
監事　高橋健夫
同　鈴木秋太郎
同　牧野千代七
相談役　田中喜兵衛

住宅篇

一、土地及戸口

◎市川、中山、八幡、國分の四ヶ町村を一丸として生れ出でた新興市川市は、去る昭和九年菊花薫る十一月三日の明治節の吉日を期して歴史ある市制施行を遂げた、名實共に千葉縣に於て千葉、銚子に次ぐ第三の都市となり、面積二千七百八十八町四反、戸數九千二百八、人口四萬六千八十人と云ふ膨大な土地及戸口を占めるに至つた、しかも帝都とは江戸川をはさんで相對し本縣の關門をしめてゐる樞要な文化都市で、市の中央を貫く東西一里有餘の東京街道の沿道一帶は商業地帶さして賑はひ國道以南は大小百余の工場が存在し縣下一の工場地帶を形成してゐる。

又一方文化住宅街を構える市川市は前述にも記す如く保健、衛生に適し、且つ風光閑雅な土地を控えるだけに人口の増加率は非常な勢ひで、さる明治四十年京成電車開通の結果、人口はさみに増加し、殊に大正十二年の關東大震災後は東京から移住して來た者で夥しい數を算し、事實上東京の郊外さしてござから通勤する數多のサラリーマンはラッシュアワーの混雜に眞く癪ひ知る事が出來る程發展を遂げ、當市川町の如き僅に一ヶ町で人口二

萬六千四百四十三人戸數四千九百〇五と云ふ現狀にて三ヶ町村に合併し、大市川を構成したのであるが、其の他交通に惠まれ施設に完備してゐる點と道路の四通八達してゐる事では正に縣下第一位である。

市川の起源

市川の地名の起きたのは、鎌倉の初期頃で、文献に現はれたのは「義經記」と稱され、治承四年九月十一日、武藏と下總の境なる、まつさとの庄「市河」と云ふ處に着き給ふ……とある。

この義經記より以前の更科日記（後冷泉天皇康平元年八七七年前、菅原孝標の女、父に從ひ上總より京に上る旅日記）には

そのつとめて、そこをたち、しもつさの國と、むさしとの境にある、ふとい川といふ、かがみの瀬「まつさと」のわたりの津にとどまりて云々と、前夜の宿泊地くろとのはま（黑砂？）より、まつさと（松戸）に來た事が記してある。此時市川附近を通過したと思はれるが、市川の地名は記されてない、然しふとい川（太井河）と稱されるのは江戸川の本名（利根川の支流）で、一說に利根の本流であつたとも言ひ、一番大きな河と云ふ處から一川と稱し、地名になり、市川と書き替えられたと稱される。

この地はもと太古一面の大海原であつた事もあり鎌倉時代は千葉氏の管下となり、吉野時代から室町時代に其

の庶族の所領となり、戰國時代には常に戰乱の巷であつた事は史上に有名である。

太田道灌の市川城改築後、原氏里見氏を經て、北條氏の所領となり天正十八年德川氏の所領となり、明治維新に至り小菅縣、印旛縣の所管に屬し明治六年千葉縣管轄となり、同二十二年始めて市川町、八幡町、中山村、國分村なるものが生れ、續いて大正十三年八月十日中山村が町制を施き中山町となり、昨年十一月三日四ヶ町村合併し市川市となつた。

人情風俗習慣

市川市は大體に於て人情、風俗は東京に近い關係と市内の居住者の多くが移住者で東京への勤務の爲、殆んど變りはないが、只一部土着の所謂祖先から殘された田畑を持つ農家の間には土地の習慣性と云ふものが強く殘されてゐる故まるつきり移住者等の人々とは相違する處多い、從つて人情、風俗は比較にならぬ程粗野質實にして溫良恭儉の氣風を有し志操健固であるも、概して國分及八幡方面は純農家多く勤勉の良習を有し共同觀念に發達し例へば、肥料の共同購入、果樹の共同販賣を行ふ等實に協調がされてゐる。

然し乍ら市川市の將來は漸次住宅地として農家との緊密なる接近が行はれていく爲自然人情、風俗、習慣等の一致統一は近く見られるであらう。

住宅地帶の市川

東京市の隣接地市川は、交通機關の發達に從々接近も、漸次人口戸數を增し發展しつゝあつたが、大正十二年の關東大震災以後は東京市より移住するもの極めて多く、爲に人口は急激に增加して現在に及んだが、今日に於ては殆ど東京市の住宅地として帝都人士に認められるに至つた。

由來市川と言へば松を思ひ、砂地を聯想する程海岸的氣分に富む住宅地であるが、田園的氣分も濃厚で、新田から八幡、菅野にかけての大部分は砂地であつて、その間にあつて亭々たる常磐木が隨所にあり、一面海濱にある樣な松の木が殊更に多い。

從つて空氣は清澄で、オゾンに富み、保健上誠に良い、又降雨に際しても砂地の關係上庭や道路は常も綺麗に洗はれてゐる。されば、この邊が住宅地として最も着目され、別莊又は文化住宅が多い。夏は行德、浦安方面の海から來る南風がしきりなく吹いて涼しさ殊の外で、冬は國府台の高台に北風をさえぎる關係寒い風は殆ど味はゝれ居られる。

交通機關から須和田、八幡、中山方面の以東は元水田であつたのが大東京の膨脹力に東漸して最近俄に開發され建立てる住宅地となつたるも今尙各所に田畑が介在し、田園氣分が濃厚である。然し騷音はなく閑靜な住宅地として正に好適地で、殊に眞間から國分に通ずる乘合自動車道路でも完全に敷かるゝ時は幽境な氣分の中に生活が出來て捨て難い眞味がある。須和田から八幡北部と中山の北部にかけては小丘多く、又一面の田畑が展開されてゐるが、將來市川市の住宅街の中心となるは必然で野趣味多い中にも田園生活をなしていく事が或は經濟的に惠まれ利益を受けるのではないか、この點移住者にとつては大に考慮して置い事である。

京成電車及び省線以南の地は浦安行德の海岸に近く、朝夕鹽風の香高く、一眸行德田甫の平原を望み、東に房總連山は雲烟模糊の間に指呼し、西は江戸川の清流が脚下に迫り、風光佳美なる事大いに住宅地として竪唉され自然開拓される事は明瞭である。

新く地理的好條件を具備したる市川市は此の間に在つて縣營上水道の施設、都市計畫網の實施開國、千葉間の電化實現等目前に迫つて幾多の利福を市民に與へて呉れるが、近く省線八幡驛の新設と京成中山、八幡間に新設される下總八幡驛は住宅民に取り、利便なる耳ならず將來必ず市川市の都心所謂文化の中心地となつて發展し、從つて八幡以東は住宅街をなす事は蓋し言か待たぬ處である。

印刷されば都人士に取つて今が最も地所を選定し、買ひ入れる時で地價の吊り上りも大して行はれず如上の好適地

は機關所もあれば、凡そこの組合に迅かに且つ自由選擇をなし、永久的安住の地を求められるこそ尤も必要なる事と敢てお薦めする所以である。

一、交通運輸

市川市は千葉縣の關門で東京市の門口にある關係、早くから交通の便開かれ四通八達して縣下各地に入る街道に當る最適の位置を占めてゐるが、水運も亦江戸川を控え京濱方面に或は佐原、銚子方面に貨物を輸送し、水陸兩様共に完全な聯絡を遂げ運輸交通に廣價を拳げてゐる。

就中昭和八年三月省線開通、市川間の電化開通と昭和八年九月船橋驛迄の電化延長に依る中山驛の開通と相俟つて時間經濟の短縮は市民生活の上に絶利増進を得帝都との往復を一層緊密にせしめた。

又市方京成電車は市中を貫通し、上野、押上と千葉、成田兩方面へ通じ乗客の便を充してゐる。

國道は東京、千葉間の舗裝が遂げられ改善されて自動車交通上に多大の便益を與へた 從つて東京より來る自動車の往復頻繁で、この間に千葉、國府台間の京成乗合自動車、更に市川、松戸間の渡邊乗合自動車等が不絶往復して松戸方面に通ずる關宿街道と、行德方面に行く道路と、幾多の市道、里道が無數に四通發達してゐる。

省線

東京驛より東に當つて最大の驛で、東京、千葉、成田、銚子、水戸、常磐線の各方面に交通の樞軸をなしてゐる。

市川市から東京への通勤、通學生は殆ど省線を利用し、兩國或はお茶の水、丸の内等へ往復してゐるが、ここは電車線の發達は顯著なるもので東は總武本線にて銚子へ到り、西は房總線に依る環狀線が安房北條、館浦方面に到達してゐる。

又成田線は成田、佐原方面から更に銚子へ行き、成田から我孫子を經、常磐線に乗換えて水戸に行くのと、更に東金線、久留里線等恐らく縣下交通網の四通八達は驚くばかりで、又全國各地へ省線のとゞかぬ處はない迄る所接續も、聯絡してゐる。

市川驛

は總武本線中主要驛で殊に昭和八年三月の兩國、市川間の電化開通にて素晴しい發展を遂げ、ひき續き昭和八年九月船橋驛迄の電化延長に依つて益々交通頻繁、一日の乗降客一萬を突破する勢ひで貨物の發着數も優に錢子、佐原を凌ぐ、又公衆電報の取扱數も多き日は五、六十本に達す尚本年一月驛の改築新裝成り、新市の大玄關として進んで中山驛と共に西、東を司る、一方市川、中山間の八幡には新に下總八幡驛の建設行はれ市民の便もさる事ながら、本年七月より開通される兩國、千葉間の電化は一層重要なる役割を生じ千葉、市川兩市の連絡を最も緊密に接近せしむる。

京成電車

明治四十年十月押上、船橋間の開通が行れ、大正九年船橋、千葉間の開通に、續いて昭和二年成田線の全通に、更に昭和九年青砥、上野間の開通が遂げられて全線全く完備し、今日の隆々たる京成電車の發展を來たしたが、省線と對抗して東京への勤務者及び東京より成田、佐原水郷方面に遊覽する乘客には最も利便とされ重要なる交通機關をなしてゐる。

殊に沿線は名所舊蹟が多く風光に富んでおる關係不絶四季を通じて乘降客がある。就中國府台驛、眞間驛、菅野驛、八幡驛、中山驛は共に市川市内にあり、市川の競馬、中山の競馬シーズンには何萬と云ふ乘降客で賑ひ、又中山法華經寺の御會式、開帳等には何十台と云ふ臨時電車や連結車輛が運轉される。

從つて現今に於ける會社の成績は頗る良く、圓滿に進行し益々發展の途上にあり、資本金は四千五百萬圓で、株主の配當、利益は相當な率で一方電氣事業もかなりの成績を擧げて供給區域も相當な範圍に亘つておるが、更に本年四月より東京電燈の（野田を除く）千葉縣下一圓を買收して益々需要家數を得て京成王國の基礎と確立を遂げるが、將來は更に車數の擴大、車輛の增加もなし交通運輸業に一大エポックを遂げると云ふすさまじい勢ひである。

水運

水運は江戸川より利根川に通じ佐原、銚子、栗橋、古河等の各地方へいく舟と東京灣より京濱方面へ運輸交通をなし頗る便利なり、從つて鐵道及び自動車等の賃金より遙に安い故を以て利用する者多く眞價を認められておるが、維新前は東北地方と江戸との交通路として、且つ軍事上の意味を兼ね唯一の價値を有しておりしも、現今は兩河通航の貨物は、軍事上の關係消滅せると、鐵道の開通とにより著しく減少せるが如くなれども、市内の生産力及び物資需要力は、當時に比して增大を示せるのみならず總ゆる産業の發達殊に江戸川べりに大工場を有する賣酒造等の燒酎などは水運を利用しドシ〳〵京濱各地方へ輸送して眞價を擧げておれば將來は輸送路として大に利用される事である。

道路

國道は千葉街道の市川、千葉間で江戸川架橋を以て東京に通じてゐる。

縣道は關宿街道の千葉、松戸線、行德、市川停車場線及び木下衛道で路線は總體に於て長

く舗装も各七米づつはある。

市町村道　は大門線、宮田石代線、真間下線、市川境線等々縦横に市内を交叉貫通して恰も網の目のやうである。

通信

日本の通信制度はかなり古き歴史を有し遠く成務帝の頃に初まり大化の時代を経、奈良朝時代に至り、鎌倉時代にめばへ桃山時代から徳川時代に至りでは大に進歩して漸く諸國の通信網が行はれ明治に及んで初めて駅逓規則の發布、逓司の設置等をみて全五年六月、國内一般に諸道郵便を開き郵制の完備を遂げ今日に至つたもので今や世界各國の通信はいながらにして出來る狀態でその偉大なる進歩は實に驚嘆に價する。

今市内に於ける四ケ所の郵便局の概要を左に記す。

市川郵便局　明治九年十月十六日の創設にして、當時市川三、〇七〇番地にあり五等郵便局扱ひでありしが、同卅一年七月市川三、〇七五に移轉、更に同四十二年十二月市川下出口三、〇八二番地の現位置に轉じ現在三等郵便局、局長は四代目の田中喜兵衛氏、局長代理は檜村徳氏、局員數五十一名、内局員三十一名、交換手二十名で交換臺を有す、其他集配手十九名一日三回の配達及び集配をなす。

同局管内の投函口は二十三、切手販賣所仝じく二十三軒、簡易保險契約高は合計百二十三萬圓、件數五千六百口で、大正八年以來の契約高優秀に依る逓信省簡易保險局よりの褒狀は實に十四枚を授與され如何に仝局の熱心に職務な勞力したかは如實に示してゐる。

八幡前郵便局　昭和四年五月十一日の創設にて、三本松通り八幡神社前にあり、現局長小島昌治氏の父小島定吉氏が初代局長で今日に至る。

仝局は集配郵便、爲替、貯金、國庫金、簡易保險等の事務取扱をなす。

八幡郵便局　大正八年九月一日の創設で市川市役所隣りに現局を有す、局長は川上秀一氏にて仝局の取扱事務は郵便、爲替、貯金、國庫金、簡易保險、電話等扱ふ、郵便は市川市の一部と葛飾町、大柏村の扱ひで電話は北八幡全般に及び交換臺を有す。

中山驛前郵便局　大正八年八月の創設で省線中山驛前に現局を有す、局長大久保忠次郎氏、仝局は郵便、爲替、貯金、國庫金、簡易保險等の事務取扱びをなす。

三、官衙公署

市川市役所

市川市役所

市川市は昭和九年十一月三日菊花薫る明治節の佳辰に市川、中山、八幡、國分の四ヶ町村が一體となつて生れたもので、名實千葉縣に於ては第三都市となり、全國で二百二十六番に相當する。

同市は實に昨年の二月以來市制施行の實現迄八ヶ月と云ふフールスピードであつたが、昨年六月四ヶ町村第一回代表者會議后幾多の問題起り仝年九月八幡小學校で開かれた四ヶ町村代表者聯合會議で市名を「市川市」と「市役所」は四ヶ町村から町村長外五名の委員を選び八幡町大久保傳之助氏を中心に選定から買收設計の運びに至つたもので、市川市の實現は仝年十月二十七日に內務省の告示に俟り確定し、十一月三日明治節の佳辰を卜

寫眞は市川市役所

して實施され、市長職務管掌に縣地方課長諸橋襄氏任命し、臨時ﾉ役に縣地方課屬の加藤昇氏、同收入役には市川町收入役須賀金右衛門氏任命され、各庶務、福利、財務、戸籍兵事の四課の課長には四ヶ町村長及び助役があたり、吏員は同樣各四ヶ町村の吏員全部採用されて市政の第一歩を八幡町小學校講堂に行ひ一部戸籍兵事課だけは舊八幡町役場に於て共に市廳舍の落成迄行はれたるが、一方市廳舍の位置は八幡、中山間の國道八幡座後の敷地に決定し十月二十五日地鎭祭を行ひ、林組の手によつて直ちに着工され昭和十年三月十六日完成し、翌十七日に移轉、十八日から事務を開始する運びに至つた。廳舍の總坪數は二百十坪二階建のモダンなもので市の中央玄關を飾るには洵に適しい立派なものである。

尙この間昭和九年十一月廿六日に新市會議員の初選擧が執行され卅名の定員當選し、十二月七日市會正副議長が決定されて、次いで市長選擧が行はれ初代市長に浮谷竹次郎が美事當選して名實新興市川市の陣形は成立されたのである。

市役所の陣容

現在市役所は助役缺員中で市長以下四十一名、收入役一名、主事四名、係長十二名で主なるものは左の通り。

市長	浮谷竹次郎
助役	缺員

收入役　須賀金右衛門
主事　庶務課長　吉野仁吉
〃　福利課長　中山泰明
〃　財務課長　石橋勝之助
〃　戸籍兵事係長　鈴木助二郎
△庶務課……庶務係、議事係、豫算係、教育係、社會教育係
△福利課……上木係、勸業係、衛生係、社會事業係
△財務課……税務係
△戸籍兵事課……戸籍係、兵事係

松戸區裁判所市川出張所

八幡市川市役所邊にあり、もと松戸區裁判所八幡出張所でありしを四ヶ町村合併に依り市川出張所と改稱し登記事務を取扱ふ。

管内は市川市一圓と浦安、行徳兩町と鎌ヶ谷、大柏の兩村を行ふ。

市川警察署

明治二十七年四月一日船橋警察署市川分署時代現在市川市三丁目下出口四百九十六番地に敷地八十五坪を有し新築、同年八月十五日落成移轉して今日に及びしが、管轄は市内一圓と浦安、行徳の兩町と鎌ヶ谷、大柏の兩村を受持つ廣範圍である。

同署は昭和八年三月警部署長から警視に昇格した縣下千葉、佐原に次ぐ大警察署にて、警部一、警部補四、巡査部長六、巡査卅五で合計四十七名である。

市川憲兵分隊

市川憲兵分隊は明治三十年六月十二日千葉憲兵分隊市川町屯所として設置されて以來諸所に轉じて、同三十六年四月一日市川憲兵分隊と改稱し、現在の三丁目に於て引續き執務をなし今日に及びしものなるが、當地は千葉東京の接續地として軍事上の要衝たるのみならず野重第三旅團司令部及び野重一、七の兩聯隊が所在する軍郷の地だけに同隊の活動は又實に主要なものである。

野戰重砲兵第三旅團

國府臺法王坂にあり、野戰重砲兵第一、第七兩聯隊の平時に於ける軍事統制上の主要部門で旅團長は衛戍司令官を兼ね衛戍地内の軍紀、風紀を司る。

旅團長　陸軍少將　谷口元次郎

野戰重砲兵第一聯隊　國府臺坂上左側にあり、もとの野重第十七、仝第十四聯隊の駐屯せし後である。

聯隊長　砲兵大佐　石井昌一

野戰重砲兵第七聯隊　第一聯隊と反對側で以前の野重第十六聯隊のありし所なり。

聯隊長　砲兵大佐　眞井鶴吉

國府臺衛戍病院　明治三十二年十一月教導團の廢止に依り名稱されて今日に及んだものなるが、陸軍傷病兵の患者を數多收容し、軍隊關係の重要なる病院で野重第三旅團を始めとし、野重第一、第七兩隊方面を主として受持つ、位置は野重第七聯隊横の一角に存在す。

因みに同病院長は一等軍醫正にして、三等軍醫正一名、二等軍醫一名、一等藥劑官一名、二等看護長一名で其の他看護兵がゐる。

四、各種團體

帝國在鄉軍人聯合分會

市川市制施行と共に舊市川、中山、八幡、國分の四ヶ町村在鄉軍人分會が一丸となり、市川市聯合分會を設立されたもので、縣下の聯合分會は市川市を入れて三市十二郡である。

職員は左の諸氏……

聯合分會長	後備砲兵大佐	澤益雄
仝　副會長	後備二等軍醫正	御園生政一
仝	後備砲兵大尉	吉田忠藏
八幡分會長	後備砲兵一等兵	松丸義之助
市川分會長	後備步兵少尉	椎名秀

國分分會長　井上千與次
中山分會長　石井七之助
共立モスリン内分會長　豫備砲兵特務曹長　深山仙藏

市川市消防組

市川市消防組は合併に依り全部で廿六部、組合員數一千二百名、自動車ポンプ六臺、ガソリンポンプ十五臺、手押ポンプ七臺である。

夏に近く本部を設置する外、三部一小隊の編成が出來る。

青年團及女子青年團

市川青年團　市内の男子十七八歳より、卅歳迄の青年にて結成されしもので、在鄉軍人會に對して有力なる團體である。

役員は團長一名、副團長二名、其の他支部長を有す。

市川女子青年團　男子青年團に對して市内の女子より結成されしもので、同團こそは柔弱なる女子に呼びかける力強い存在である。

役員は團長一名、副團長一名、其の他幹事を有す。

共立モスリン青年團　共立モスリン中山工場の青年職工より結成されしもので、團員二三百名からなる。

國防婦人會

非常時々代に於ける銃後の婦人として皇軍の慰舞、慰安に或は國防上に於ける萬全な働きをなす目的のもとに市民の各家庭の婦人が一團となつて結成されし會で時に在鄉軍人會に參加し各將兵の送迎に、又は各種軍隊關係の儀式にも參加してめざましい活躍を遂げるものであるが、其の他にも之と同樣な**防護團婦人會**、**國府臺衛戍司令部將校婦人會**等がある。

共立モスリン國防婦人會　同會の發會式は昭和九年十一月十八日で、共立モスリン中山工場に働く女工一千四百名が會員、會長は同工場の太田やす女史である。

市川市杏林會

市川市杏林會は市内開業醫より組織されたるもので、各人の意見研究等を發表し、融和親睦を計るを以て目的としてゐる。

現在會員は卅一名左にイロハ順を以て記す。

服部善一	電話市川二五番	野中景吉	電話北八幡二七八番
星野憲藏	〃 一四四番	國井光泰	〃 市川六二二番
道津幸雄	〃 北八幡二四一番	久保田愼	〃 五一九番
戸塚環	〃 市川六三六番	藤原豊次郎	〃 六七二番
大野潤一郎	〃 二〇三番	古川智	〃 一五二番
大峡清太郎	〃 二七三番	小坂美郎	〃 北八幡一三一番
岡本實	〃 三一一番 一〇四番	後藤五郎	〃 二五四番
川瀬春雄		遠藤龜之助	〃 二六三番

吉岡利光	〃 市川一四番	秋山瑞來	〃 市川三四四番
吉田眞	〃 一三一番	御園生政一	〃 北八幡三二七番
高橋統閭	〃 七七番	宮寺卓爾	〃 二七五番
玉井仁		櫻田桝太郎	〃 市川四五一番
津々見仙甫		峰永五郎	〃 一三三番
中島清明	電話市川三二六番	廣瀬安之	〃 三二七番
中村仁	〃 三〇一番 一四五番	杉田理千代	〃 四五〇番
内山浩	〃 北八幡五五番		

市川看護婦組合

現在市川市に有る組合の看護婦會は左の三つである。

石川看護婦會

石川はな

宮田一一〇一番地

電話市川一〇四番

永樂看護婦會

渡邊月子
眞間北邑横
電話市川四二八番

二六看護婦會

工藤てい
眞間東華園内
電話市川四一二番

耕地整理組合

市川市と八桂村、行徳町、葛飾町、大柏村、法典村、鎌ケ村の加盟市町村よりなる、耕地整理組合事務所は、市川市内眞間川際にあり、現組合長は浮谷權兵衛氏である、

同組合は大正十四年五月大體事業の完成をなしたるもひき續き殘務整理中である。

隔離病舍組合

傳染病隔離病舍組合は市川市と葛飾、行徳兩町の組合立になるもので、病舍は八幡にありて附近に附屬火葬場がある。

委員は各市町より選ばれ豫算其の他の審議を司る。

江戸川防水組合

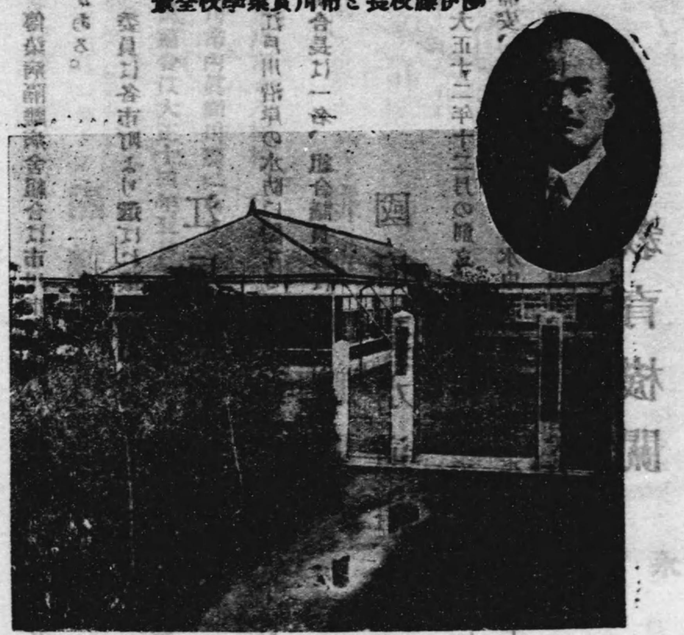
江戸川沿岸の水防に關する組合にて各沿岸流域の關係町村より組合議員を選び、水防の爲萬全を圖つてゐる。組合長は一名、組合議員數は三名である。

國府臺水道組合

大正十二年十二月の創立、資本金三萬圓にて。國府臺一圓に亘り飲料水の供給をなす、目下市川市の一部及び浦安、行徳方面にも、給水中であるが、尙ほ事業の擴張を施しつゝある。

役員は理事長一名、理事四名、監事二名である。

五、教育機關



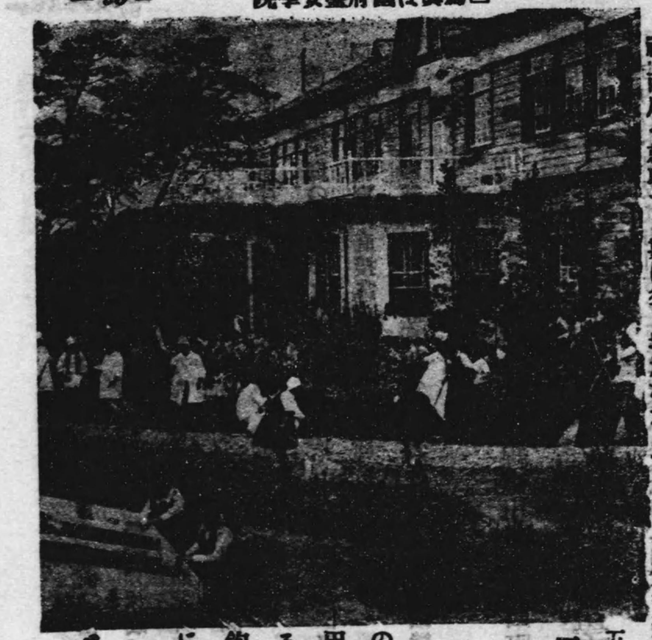
圖伊藤校長と市川實業學校全景

市川實業學校

本校の創立は、大正十年六月で初め市川學館と稱せしが大正十四年四月校舍の新築と同時に校名を市川實業學校と改めた、越えて昭和七年六月講堂を新築次いで昭和九年七月校舍の増築をなし現在に至り名實文部大臣認可乙種實業學校として市川市内に於ける男子の中等程度教育機關として最も必要なる存在となつてゐる。

尙本校の授業目的は實業學校令と商業學校規定に從ひ立憲國公民の日常必須なる智識と德性を涵養し、將來の中堅國民を養成してゐる。

修業年限三ヶ年、毎年三月下旬新入學生の募集をなし、四月一日より入學を開始してゐる。



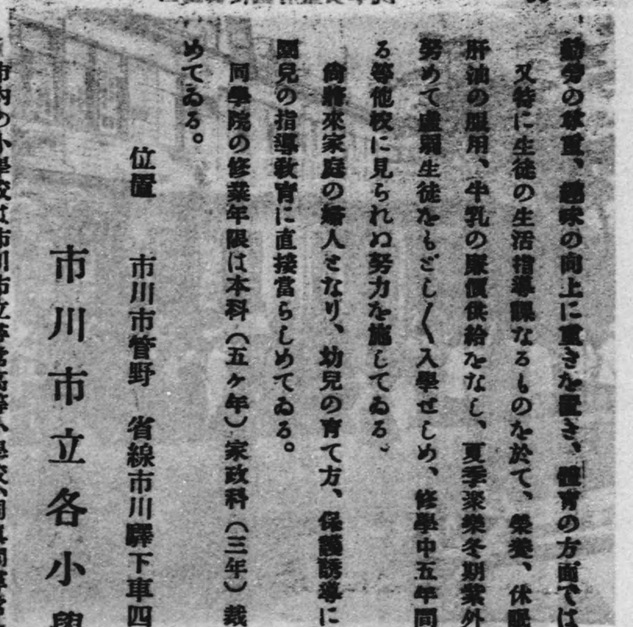
又昭和八年度迄の同校卒業生は合計三百廿一名なるが、最近五ヶ年間に於ける就職率は頗る優秀にて各銀行會計商店へ就職する數は益々增加を示してゐる。同校々長伊藤教順氏は有名な宗教々育家で其の他有能な教職員十五、六名揃つてゐる。位置は市川市新田、省線市川驛の第一踏切を越し市川競馬場の道に向つて、約一丁左側の所。

國府臺女學院

自然を親しませて、貞實溫雅の女性に養成し至誠日新の訓育に當る國府臺女學院は、大正十五年二月現校長平田華藏氏が總ゆる體驗と經歷に依つて創設したものであるが、氏は官學崇拜、私學蔑視の弊風は大に嫌ふ處で、飽く迄も自由なる立場で職業的でなく眞劍に理想の教育に努力してしかも床しい人格の訓育養成を行つてゐる。

本學院の教育方針は、教授の方では智識技能の實際化と、自學自習を奬勵し、訓育の方では、敬虔の心の涵養

勤勞の尊重、趣味の向上に重きを置き、體育の方面では、自營的の養護衛生と、身體の鍛練とを主眼としてゐる



又特に生徒の生活指導課なるものを於て、榮養、休眠、運動の三方面に亘つて、自覺的の衛生訓練を重じさせ肝油の服用、牛乳の廉價供給をなし、夏季聚樂冬期紫外線浴等を奬勵實施し、大都市生活の缺陷を補ふなど大に努めて虚弱生徒をもどし〳〵入學せしめ、修學中五年間の健康增進を計つて將來健全圓滿なる母體を養護せしめる等他校に見られぬ努力を施してゐる。

尙將來家庭の婦人となり、幼兒の育て方、保護誘導に何時でも役立つ樣研究體驗せしめる爲に同學院附屬幼稚園兒の指導教育に直接當らしめてゐる。

同學院の修業年限は本科（五ヶ年）家政科（三年）裁縫專攻科（一ヶ年）に分けて各特色ある學科を履修せしめてゐる。

位置　市川市管野　省線市川驛下車四町京成眞間驛下車二町

市川市立各小學校

市内の小學校は市川市立尋常高等小學校、同眞間尋常小學校、同國分尋常高等小學校、同八幡尋常高等小學校、中山尋常高等小學校の五校であるが、その内眞間尋常小學校は市制施行と同時に市川小學校より獨立誕生されたるもので、校舍は新築完備し地理的にも好適なる處にあり、中山尋常高等小學校も近く增築充實されるほか、各小校學も漸次改善され面目一新することになつてゐる。

實業補習學校　現在市内には市川實業補習學校、中山農業補習學校、八幡實業補習學校、國分實業補習學校の四校あるも各小學校に附設されてあるもので設立年數も相當經過してゐるが夜間農家及び商家の青年子弟を教育し實績をあげてゐる。

青年訓練所　青年の生活に立脚して個性を尊重し、心身の鍛練をはかり、眞面目にして良く働き、社會奉仕をなす青年を養成し以て訓練所令第一條の趣旨を貫徹せしめるもので、入所資格者は市内青年に限る。

職員は在鄉軍人會より二名、教練指導員として二名、主事及學科指導員として小學校より六名囑託されてゐる。

其の他共立モスリン中山工場内にも青年訓練所を有す。

圖書館　市内に一ヶ所で市川小學校内にあり、もとの市川町立圖書館を市に引きついで現在に至つたもの、創立は大正十一年四月で圖書、一千二百册餘、閲覽人員六百二十人は收容出來る。

市川女塾日本青年協會

農村女子の自覺を完全ならしめる目的に、一方人格の陶冶を本として、都會並に農村に必要な教養を與へ將來家庭の主婦ともなる可き女子を養成する日本青年協會市川女塾は、財團法人日本青年協會の創設にて、市川市平田（京成電車菅野驛下車國道へ向ふ約一丁の處）に在る。

同塾の入學資格者は高等小學校卒業生と同等以上の學力を有する者二十名以内を入學せしめて、公民及び教養家事、家庭、園藝、農產加工の各科目に分け教育を施して益々眞價を高めてゐるが、修業年限は一ケ年で、毎年四月開始して三月に終了する。

講師は本協會の常務理事法學士關屋龍吉氏、元千葉縣社會教育課長文學士高橋正之氏、農學博士三木泰治氏及大多和農氏他十一名である。

兒童教化　八幡學園

昭和三年十二月十二日現在の地八幡町へ（京成電車八幡驛へ下車北方へ五丁）文學士久保寺保久氏の設立によるもので、本學院は精神薄弱者に對する特殊教育及養護並に職業輔導をなし、保護者より直接委託にかゝる十五歳未滿の者と東京府並東京市一くは、千葉縣下の市町村より救護法に依り市町村長認定の上送達された者を入園せしめてゐる。

尙兒童は學寮内に寄宿させ家庭主義に依り養護して、むき〳〵の學科、實科作業なり、運動を課し、内心生活の發育と個性の伸展に企圖してゐる。

又同園は東京市及び千葉縣の指定で、養護料は一ケ月二十圓、特別の事情者には輕減もしくは免除もしてゐる。

郊外學園

市川市國分新山常泉池畔に設立せる、日本橋區立郊外學園は皇太子殿下御誕生記念事として、日本橋區内の各小學校兒童をに土親しませる爲昭和九年十二月二十三日を以て日本橋區長川口寛治氏ほか市學務委員、關係者多數と市川市市長等列席のもさに地鎭祭を擧行して、昭和十年三月完成の上、四月より開園されたものである。

尙公園の附近は名所舊蹟多く春夏秋冬風致に富む實に理想の地である。

六、名士人物

市川市の有志

市川市内に名士、有志として數へる人物は多士齊々である。まづ東京に近い關係で理想的住宅地として永住するに或は保健衛生の地として別莊、住宅を有する實業家、政治家、藝術家、學者、醫者等の數多の人士が居住するやうになつた關係もあるが、一方工業都市としての市川市には諸會社、工場が多ければ從て之等の名士、有志多數居住してゐる。

左にほんの代表的人物をのみ殊に編者の知れる範圍に於て（尤も紙面の都合等もあれば）有志の概略を述べる

京成電車開發の恩人

本多貞次郎氏

京成電車今日の大成と隆盛に導いた貢獻者本多貞次郎氏は、人も知る如く京成電氣軌道株式會社々長で政治家としても又有名である。

氏は栃木縣の人、祿一貫で市川に來り明治初年の偉傑雨敬の薫陶を受け大に考へる處あり、明治四十年十月京成電車を架設以來幾多の艱難辛苦と波亂曲折に遭遇して、文字通りの惡戰苦闘を遂げ、東京、千葉及び東京、成田間の電車事業を完成せしめ地位と財なかち得たるが其偉大なる功績は等しく市川市民と千葉縣民の嘆賞する處で、眞間電停際、氏の邸宅前東參圖入口の銅像は實に事業の功勞者として偉徳を永遠に傳えるもので景仰されてゐる。

本多貞次郎氏

氏は大正六年千葉縣會議員に次いで大正八年に當選するや直ちに議長に擧げられ、續いて大正十年、同十三年、昭和二年同七年と前後四回衆議院議員に當選し、現在代議士千葉縣政友會支部長の要職を有し本黨中でも重きをなしてゐる

一面涙もろい氏は人情家で堅忍不拔の精神を奥深く藏し、事業の爲、人の爲には全く寢食を忘れ老軀をさげて、努力を惜しまぬ氣慨に溢れてゐる。之故に市川市民及び縣民に稗益したる功績は實に多い、例へば多古線を買收して縣財政の癌を除き成田電鐵の開發に資する等。又市民及び沿線一帶の町村民に電氣の供給をなし益〻瓦斯株式會社を引受け、同社長となつて事業供給の進歩を期し瓦斯燃料普及の爲め貢獻をなす

等、或は公私事業に財を寄せる等一々枚擧に遑がない。

更に市川町長時代に於ける議事堂は氏の寄附として永く記念になるものである。

氏は市川市の初代市長縣會議員浮谷竹次郎氏の岳父で市制施行前の功勞者で又生みの親であり、實に市川市内に於ける處の西圓寺公とも稱すべき偉大なる存在で本年安政五年生れの七十八と云ふが元氣矍鑠として今尙壯者を凌ぐ勢ひで幾多の事業關係或は名譽職等有するも一向平氣にて縱橫無盡の活躍をなし老齡敢へて益々國家の爲身心をさゝげてゐる。

蓋し政治家として實業家として秀れたる、氏は又市川市民の大恩人である。

市川市の大立物 市制施行の功勞者 浮谷權兵衛氏

葛節瓦斯株式會社專務取締役で耕地整理組合長、東葛飾郡農會長、市川市農會長、所得稅調査委員、相續稅調査委員等幾多公人の肩書を有す浮谷權兵衛氏は實にこれだけでも氏の偉大なる存在が知れる。

嘗つては大正八年千葉縣會議員に當選し、續いて三期間つとめ、昭和六年縣會議長に推され、千葉縣政に遺きをなし議長として名聲を博した。

氏は市川市の門閥家、豪農の舊家に生れ、人となり資性剛直謹嚴にして、學識高く事業慾の旺盛なしかも實行

性の豪かな人物で當代市川市の第一人者で正に代表的大立物である。

又人も知る如く初代浮谷市長の令兄にして兄弟仲の睦じい事は有名で二人乍ら揃うて縣會議員に在職し縣政に盡力をつくしたる功績は大きい、尙市川市制施行に當りては令弟浮谷竹次郎氏を大に勵まし飽く迄も市川の名を追ふた事は近頃の挿話として好評である。其の他氏の公私に關係せる事業は多く、現に市川市の各委員を兼ねるほか市の商工會顧問に擧げられる等自治につくす功勞は偉大なる足跡を殘して尙益々市政に或は公共事業に貢獻してゐる。又舊市川町時代に於ける氏の名譽町長は有名である。

氏は衆議院議員として將來本多貞次郎氏の後を約束されて國家の樞機に參するも蓋し遠くはない。

初代市川市長
千葉縣會議員

浮谷竹次郎氏

明朗快活にして豪放の士初代市川市長、千葉縣會議員浮谷竹次郎氏は、代議士本多貞次郎の女婿、浮谷權兵衛氏の令弟で生粋の市川ッ兒、夙に秀才の譽高く、府立第三中學校を卒業し、札幌農大に進み、優秀なる成績を以つて卒業し、北海道廳技手となり、青森縣農林技師となり官界にあつたが職を辭し京成電車に入り重要なる課長の椅子を占め後に北總鐵道の支配人となり、次で成田電鐵に奉職大に業績を殘したる等、氏の政治的手腕は遂に方向を轉換し市川町會議員に二期、昭和七年縣會議員に當選現に其の要職にあり、更に町長二期をつとめあげて、昨年十一月二日市川町長を辭し、同月二十六日の市川

市會議員選舉には最高點で當選、續いて十二月七日市川初市會に美事決戰投票の結果晴れの初代市川市長の榮冠をかち得たが、又氏は實に市川市の生みの親であり、功勞者である事は特筆する處である。今や新興市川市の前途は頭腦明晰しかも卓絶せる氏の手腕に期待多いが、蓋し適任なる市長と言へる。（本年四十八）

市川市生みの功勞者

中村勝五郎氏

民政派の重鎭、市民會の大御所中村勝五郎氏は浮谷市長と共に市川市制施行前に於ける最大功勞者である。

氏は明治廿五年生れ、本年四十四才の働き盛り、今の松戸高等園藝學校の前身、松戸中學に學び先代の事業たる味噌釀造業を繼承して今日に至りしがこの間中山町々長たる事三期に及び、在職當時は難問題たる鉄道問題を解決、共立モスリンの復活、中山

競馬倶楽部の復活等の功績を残し偉大なものがある。

尚氏は剣道を好くし既に三段の腕前で師範の資格を有す、殊に趣味は競馬を始めさし盆栽、書畫、骨董類で又小鳥も愛玩してゐる。一面仁俠の人情厚い熱血漢で、正義觀の強い人である。

又氏は幾多の公共事業にも關係し名譽職等も斷れてゐるが東京に於ける民政派の巨頭として重きをなし其の將來は嘱ろ期待されてゐる。

陸軍中將　隅元政次氏

維新の元勳西郷南洲翁と鄉里を同じくする隅元政次氏は鹿兒島縣稻荷町に安政二年九月二十五日生れ本年八十一才、氏は明治十年の西南役には征討軍第二旅團參謀として出征同年七月武功により陸軍少尉に任官續いて日清戰爭には近衛砲兵聯隊長砲兵中佐として轉戰、更に日露戰爭にも聯隊長として出征し少將に任官戰後間もなく東京灣要塞司令官となつて、陸軍中將に任官、大正十一年軍職を去り現在の市川第六前の三〇三〇番地に居住し、閑居の身にあるが、氏の家は實に明治大帝の行在所として昭和九年十一月二日史蹟名勝天然記念物保存法により文部大臣から指定された光榮を有してゐる。

陸軍中將　上村友兄氏

氏は人も知る陸軍大臣林大將と同郷の石川縣金澤市の出身明治十三年九月十八日生れ、中央幼年學校に入り明治三十五年陸軍士官學校を卒へ直ちに名古屋の工兵隊三大隊に所屬少尉に任官して日露戰爭に出征武功をたて中尉に累進終えて牛込砲工學校に入り大尉に累進、名古屋中隊士官學校教育總監工兵監部附等の職を拜命し再び砲工學校敎官に迎へられて大正十年松戸工兵學校大隊長に轉じ、大正十三年工兵監部員となり同十四年少將に任官して再び松戸工兵學校敎育部長に轉じ、この間學校長に榮進昭和八年八月中將に累進して同年九月東京灣要塞司令官に轉補し同九年八月豫備役に編入され同月十日市川市眞間下の現住地に居を構へ閑居するに至つたが、氏は現職當時より悔堂と號して漢詩をよくし多くの詩作を殘すも、今尚耽念に沒頭され數多の傑作ものを所有してゐる。

刀圭界の重鎭　高橋統閭氏

內科醫の權威で、製藥方面にも造詣殊に深い醫學博士高橋統閭氏は市川市制の功勞者としても、大に知られて

ゐる。

市内五丁目　門通りの宏壯なる病院は患者の診療を乞ふ者多く常に繁忙を極めてゐるが、市内外の名聲高く、市川市刀圭界に於ける重鎭である。

趣味は書畫、骨董の他政治方面にもかなり關心を有してゐる。

田中喜久兵衛氏

氏は實に市川きつての名門家の生れで、累代醬油釀造業を營む多額納稅者である。

殊に昭和九年十一月二日文部大臣より明治天皇聖蹟として史蹟名勝天然記念物に指定された光榮ある家である。

又市川市内に於ける人望殊に厚く、名利に恬淡で濶達の氣風は良く氏の人格を物語り、現に氏は市川郵便局長家屋稅調査委員、青年團支部長、市川市商工會顧門等の要職にあり市川市の發展、福祉の爲には大に貢献してゐるが、氏未だ年少にして前途春秋に富む。

趣味は謠を好くすれども刀劍、書畫、骨董類は特に好み家寶として又大に藏されてゐる。

小澤元重氏

氏は市川驛際五丁目砂河原に東洋一の眼鏡枠製造の大工場を有する實業家で、現在市川工場懇和會長の要職にありて。市川市内外の工場關係には重きをなしてゐる。

又氏は性來温厚謹讓の圓滿家で大の日蓮信仰家であり、大聖日蓮の獅子吼に共鳴して日夜この主義信仰の宣傳普及の爲には努力してゐる。

日本畫大家　町田曲江氏

帝展審査委員、現日本畫壇の巨匠である氏は長野縣人、菊地契月齋伯などとは同鄕、竹馬の友である。

氏の畫風は温健なる彩管によく其の精神氣分を抽寫し、全く名人氣質にして多作を避け、最も花鳥に堪能である、有名な明治神宮繪畫館壁畫「陛下御練兵」の執筆はまことに氏一代の精根と鍛練を要せし大傑作もので實に見事な出來榮へである。

氏は人となり實に温厚篤實の君子人にして、至つて平凡の中にも才氣煩發、炯眼ありて人と和するに全くへだてがない又後進の指導誘掖の爲に努力し、市内在住の畫伯は大底氏を師とし薫陶を受けてゐる。

佛畫家　桐谷洗鱗氏

林德松氏

氏は林組土木建築請負業の主人にして、實に今回の市川市廳舍は氏の手に依つて完成せるものである。

市川市根本に本宅を有し東京市本所區中ノ郷竹町三七番地に林組出張所を設けひろく縣下は勿論東京市内外仕事を持つて一大勢力を張つてゐる。

氏はかつて市川町會議員及び其の他多くの名譽職等に擧げられ自治體に盡くせる功勞は大なるものあるか現に、家屋稅調査委員等の重職にある。

佛書界の第一人者である。市内眞間川入江將に住む眞間の章分人で、現在氏の書室には世界的珍寶印度古美術品が山と積まれ秘藏してある。尙氏は曾て北印度よりアヂヤンスター等に古佛畫研究に或はハワイ及び南北アメリカ等にも東洋美術の講演等なし彼の地の佛教藝術等を研究し、大に佛書界に盡力もその貢獻する處は大きい。

氏は又市川市内有數の多額納稅者で多額納稅貴族院議院の互選資格を有してゐる。人々は稅に見る重務な實行の人である。

木村彦五郎氏

氏は前市川町々會議員五丁目區長等幾多の名譽職な荷負つて自治體に盡くせる功績は實に偉大なるものがあり て、今は全く公人としての肩書を有さぬが、氏の如き練氣と才幹に富む士は洵に少なく明快なる頭腦は當時衰く町の爲、區の爲に努力され、在職中いくとして可ならざるはなく、教育、道路、衛生、消防等に貢獻してゐるが、就中教育事業に於ては、特筆する處で永らく市川小學校後援會長の任にありて兒童教育の爲稗益せし事も少くなく、大正十五年には東葛飾郡教育會より洋杯一組、昭和五年には同校後援會より感謝狀並に銀杯一組を贈られてゐる。

氏は現在市内五丁目に他日なす處あるやに見え大に沈默してゐる。

川上秀一氏

舊八幡町の大御所民政派の重鎭として有名な氏は八幡郵便局長で、代々醬油釀造業を營む資産家である。

かつては多くの町名譽職等を有せしが、現在は公人の肩書はもたぬも、市川市制施行に於て、八幡驛設置等に

は偉大なる功績がある。

佐々木熊次郎氏

氏は前八幡町々會議員で民政派に所屬せるも政黨政派を超越して常に氏一流の論陣を張り雄辯にまくし立てる處到底普通の人の向ふ處でなく、實に雄辯家で知られてゐる。

惜しい哉初代市會議員選擧には惜敗せしも、市制施行に盡くせる功績や省線八幡驛の設置運動等には身命を賭して運動をした貢獻者である。

鈴木浦次郎氏

實つては陸軍主計として經理計數に獨特の才腕を持つ氏は八幡町々會議員、省線八幡驛建設委員等幾多の名譽職を有して町政に盡力せる功は甚大でその功績は大に認められてゐる。

氏は今回市川市會議員には惜敗したか、氏の如き有爲の人材は將來大に市政の爲に必要の存在である。

吉野仁吉氏

氏は前市川町助役で、現市長浮谷竹次郎氏の好き女房役として市川町政に盡力貢獻せし事は、既に衆知の事で其の手腕は認められてゐる。

會議員

又氏は頗る謹嚴寡默の實行力に富んだ勤勉家で、又事務家として過去永年な官界に仕上げた人だけに事務的方面の手腕は卓拔なるものがあり、現在市川市役所の大舞臺に庶務課長の重要なる椅子を占めて大にきりもりなしてゐるが、氏の如きは助役缺員の折市川市長の女房役として正に適任者である。

石橋勝之助氏

前國分村長、現市川市の財務課長である氏は市制施行に於ける當時は實に不眠不休の活動をなし寒村から一躍新市區に加へて村民負擔の輕減を期せしめた大なる功勞者である。

氏は常に至公至平で愛村の念否愛市の觀念は人一倍強く市川市の大舞臺の財務をきりもりするには至當適任と言へる。

尙同氏と共に市制施行前に於て國分村代表委員として活躍され同役場助役栗山久助、石橋甲平、飯田泰助、藤崎大八、松丸藤松の諸氏は功勞者として特筆なすものである。

須賀金右衞門氏

市川市臨時收入役として特異なる財政的手腕を振ひ計數整理に當つてゐる氏は永年市川町の收入役として町民に最も親しまれてゐた。

氏は謹嚴廉潔の士にて今や五十代の最も圓熟せる働き盛りで市川市の收入役としては正に適任者である。

太田寛氏

經營の接骨療院は市川市新田一九六番地京成電車管野驛を下車南方約二町餘の所にあり、青年子弟の武道的な指導も柔道の教授を行つてゐるが、氏は熱烈なる愛國主義者で正論の人格者で既に現地に居住して十年有餘を閱し好評ある。

市會議員

市制施行の初代市會議員選擧は昭和九年十二月二十六日に執行され、定員廿名が四萬市民の代表者となつて榮冠を獲得した。

左に當選順で各市會議員の人となりを概略記す。

大和久吉郎氏

今回の市會議員選擧は最高點の當選で榮冠を荷負ふ、氏の今後の活躍と闘志振りは市政に期待される、本職は新聞業にして、政友派に屬し本多代議士直系の人で本年丁度四十の働き盛りである。

吉岡利光氏

市川市の名醫として重きをなす、常に正義人道に立脚し正論をはり、市政には最も識見豐富な人物として市會の中心人物である。

松崎清吉氏

中山に居住、本業は自轉車販賣業で土地の人望家、今回の市會議員の選擧には中山からいち早く名乘りをあげて、しかも最高點者である。

石井喜代太郎氏

今回の市制施行には實行委員として盡力した功勞者、市川市平田の人で、前市川町會議員各名譽職等を有せし土地の人望家、現に市川果實組合長の職を有し優良梨の苗木を他國から移植して福利增進に貢獻してゐる、本年四十六才の働き盛りで前途大に嘱望されてゐる。

米本濱次郎氏　前市川町會議員、東大出の文學士で陸軍各方面の要職に永らくおり學識才能共に豊富な人で市政には黨派を超越して公平である。

高原正高氏　柔道四段、劍道初段の腕前を有し、正義熱血の雄辯家にて堂々たる體軀の持ち主である。舊八幡町から最高點で當選した人である。

後藤仁助氏　所得稅調査委員、家屋稅調査員、市商工會顧問等幾多の肩書を有し、市川市屈指の地主で、又土着の新人として敎養の高い人望家である。民政派に屬し將來縣會議員又は代議士にも出る人物である。

岩澤貞氏　舊中山町會議員で京成電車鬼越停留場新設には大なる功勞者である。

横山富治氏　總同盟聯合會長、無産陣營の闘志として舊市川市から當選した人で全市會議員中の最年少者、本年三十四才の働き盛りである。

福地新作氏　前市川町消防組頭、市川市制に於ける實行委員として大に活躍をされた人で、事業家であり、地主でもある。

會氏の令弟福地春吉氏は同市川町會さして自治體の爲盡力せる少壯有爲の人格者である。

鹽物正三郎氏　前八幡町長、前市川市制に於ては最大の功勞者で、省線八幡驛建設等には身命を賭して活躍をした言はゞ舊八幡町に於ける恩人であり、氏の前途は洋々として大に刮目されてゐる。

鳥羽辰之助氏　豫備陸軍歩兵特務曹長と勳八等の肩書を有し高等官の恩給を受ける。本業は操觚界に身を於て新聞を經營し、政黨的色彩は濃厚にして民政黨に屬す、千葉縣支部民政調査員及び同支部評議員等の職にある。

後藤泰次郎氏　元市川町會議員、所得稅調査委員、方面委員等多くの公職にあり、人望ある有力家であつた。情味豊かな人格者で市政淨化に正義の人としては大なる存在である。

山田萬吉氏　前中山町會議員 土地に於ける長老格で市制執行には實行委員として大に活躍を遂げた功勞者である。市議中に於けるおしのきく聲望家である。

田中光三郎氏　市內土着の大地主で前市川町會議員、名譽職等をなした聲望家で土地の長老格であり、名門家である。

染谷元治氏　前市川町會議員で政治方面には頗る熱心な親分肌の風格を有す熱血漢であり市

民生活向上の爲には大に努力してゐる。

五十川玖表氏　前中山町會議員、現中山三業組合長で土地の發展の爲めには大なる犧牲を拂ひ盡力してゐる。

市議中に於ても一見識を備へた闘士で口も八丁手も八丁の人である。

小林勝太郎氏　商大の出身一ッ橋高商出身の計理士、前市川町會議員であり、土地の信望厚い人である。

常に土地の開發等には意志をそゝいで、新市稅等の負擔問題等には化學的の研究をなしてゐる。

小林義重氏　豫備主計、前市川町會議員鴻の字料店の主人で國府臺三業組合長をもつとめ都人士誘致策、風致地區、遊覽地帶の設備等に大に盡力をなしてゐる。

其の他上水道の完成、防火設備の改革等重要問題に不絕實現につとめて大に貢獻してゐる。

北川善太郎氏　元八幡町々會議員、舊八幡町に於ける地主で、同地產業組合長の要職にあり不絕產業開發の爲に努力してゐる。

山下角太郎氏　前中山町會議員で市制施行に當りては中山小學校等の教育事業の說備充實の必

要を力說して效果あらしめた貢獻者で老齡益々市政にありて健闘してゐる。

椎橋巳喜雄氏　前八幡町々會議員でで市政實行員としては大に活躍をなした土地の有力家である。

平松元次郎氏　前八幡町會議員、消防組頭等の要職にあつた名望家で市制施行には大に勞力された人である。

武田吉次氏　舊中山町より無產派を代表して當選せる無產陣營の若手闘士で、横山氏と同樣市會議員中の異彩である。

山崎久吉氏　舊國分村に於ける只一人の當選者で、土地の有力家、温厚の人格者である。

將來國分方面の理想住宅地を設備するに必要な人である。

岡田耕平氏　前中山町長で市制の功勞者であり、初代の市會議長である。

京成鬼越の電車停留場設置、中山法華經寺の公園化、學校の設備充實等には大に與つて力あつた人で市會議員の最年長者である。

柴田眞作氏　前八幡町會議員、本職は土木請負業で區劃整理、道路網の完備等には大に努力

してゐる。

中島一郎氏　前市川町會議員乙初代の市川市會副議長の要職にあり、常に理論正確を持して福利增進の爲盡力してゐる。

宇田川裕藏氏　前市川町會議員で後備主計の肩書きを有し、名論卓說の雄辨家として知られてゐる。

舊名與職者

舊四ケ町村に於ける名譽職者は市川市制に於けるかくれたる功勞者で兎角新市になつて市民より忘却され勝ち易い故を以て茲に左に其の人々を列記して本書の卷末を飾る。

舊市川町區長及代理者

第一區長　武井俊次
同代理　石井留五郎
第二區長　吉岡利光
同代理　安間軍次
第三區長　牛尾守三
同代理　內田兼松
第四區長　百田英二
同代理　阿藤友太郎
第五區長　橫田信四郎
同代理　庄司專三
第六區長　平井虎之助
同代理　小作六之介

舊中山町區長

第一區長　谷口晃吉
第二區長　松崎末吉
第三區長　保々誠次郎
同代理　三神爲吉
第七區長　坂本元次郎
同代理　後藤信吉
第八區長　宮崎銀次郎
同代理　栗原一郎
第九區長　大里三熊
同代理　太田德次郎
第十區長　水野絞之助
同代理　海老原廣謙
第十一區長　岩澤常三郎
第四區長　佐久間石太郎
第五區長
第六區長

第三區長　吉野七之助

第六區長　松丸吉五郎

舊八幡町區長及代理者

第一區長　伊藤新一郎
同代理　加藤誠一
第二區長　岩澤宗之助
同代理　石井關藏

第三區長　藪崎惣四郎
同代理　監物正三郎
第四區長　染谷與平次
同代理　染谷愛之助

（終り）

昭和十年四月五日印刷
昭和十年四月十五日發行

發行印刷所　千葉市寒川日本橋通一、二三五
房總日日新聞社

編輯印刷人　千葉市寒川一、三七一番地
菊地弘

發援市川市役所

葛飾瓦斯株式會社

本社　市川市眞間停留場前
電話　市川三五九番
工場　電話　市川三六二番
同鬼越五四五番地
電話　北八幡二六番
船橋町海神中濱田三二七
電話　船橋四六〇番

中山出張所
船橋出張所

處方調劑
藥品一般
高級化粧品
吸入用酸素

北澤藥局

市川市五丁目

電話市川四三九番
振替東京六六三二五番

處方調劑
藥品一般
高級化粧品

道口藥局

市川市三本松

藥劑師 道口健介

電話三四五番

營業課目

內外藥品
醫療器械
高級化粧品
計量器
農藝藥品

陸軍醫戍病院御用

押賀藥局

市川市根本町

電話市川三四五番

藥品一般
化粧品類

島崎藥舖

市川市八幡
電話北八幡二〇九番

宇治信樂俠山銘茶

卸シ
小賣
諸國御茶處
明正園

佐野屋茶舖

中島一郎

市川三丁目
電話六一〇番

和洋酒
罐詰類

加和良屋

平井虎之助

市川市根本
電話二六九番

美味低廉……出前迅速

西支料理

香蘭

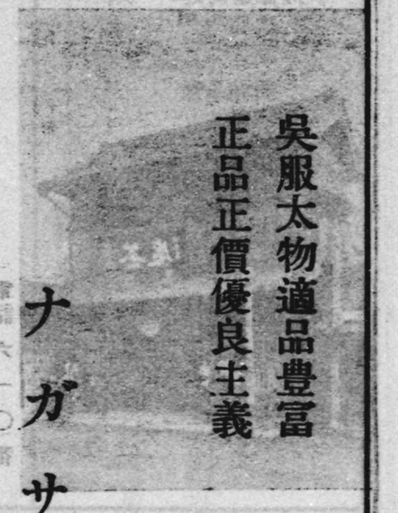
……御注文ハ是非六〇三番ヘ

各種洋品類
タビ學生服

洋品部

電話 市川 六〇三番

市川市五丁目三本松通リ
京成電車眞間驛入口



吳服太物適品豊富
正品正價優良主義

ナガサキヤ吳服店

市川市かんべん橋際電話三番
市川驛前直線國道横斷北入

明治生命保險株式會社市川代理店

市川の番地ト貸家お尋ねの方は御遠慮なく幣店へ

本店省線市川驛前角
電話一高一番

名物……桃羊羹

島村菓子舖

和洋風菓子類

支店市川市根本
電話五五番

新鮮榮養ノ活力

◎健康ハ幸福ノ基

天神山牧場

電話 市川一五〇番
市川市宮田一三六五

牛乳搾取業 井關忠助

◎牛乳ハ健康ノ基

全完備設生衛

各國薪炭
石炭
コークス

三河屋商店

坂本元次郎

市川市新田大通り
電話市川四八番

總武線市川驛前

市川合同運送株式會社

代表者　高橋健夫

和洋酒食料品
罐詰砂糖

湯淺本店

市川ビヤホール

市川市市川驛前
電話　三三〇番

酒類醬油

湯淺東店

市川市新田
電話二六番

三菱石油・セメント・建築材料

塚本清三郎商店

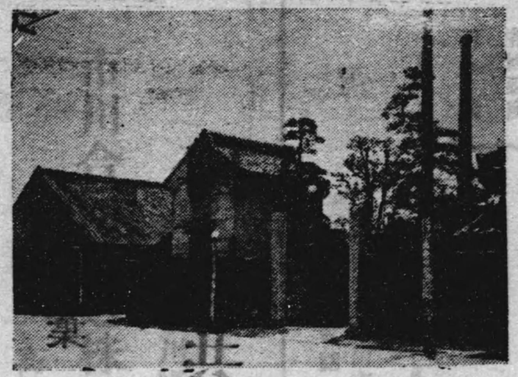
市川市新田
電話一三八番

千葉縣市川市二丁目

國民共濟無盡合資會社

市川出張所

電話市川四七三番



千葉縣市川市鬼越

中村味噌釀造所

電話北八幡五番 六番

東京營業所 東京市本所區亀澤町一ノ卅三

電話墨田四七三一番

制市祝

下總中山合同運送株式會社

保證責任

中山信用販賣購買利用組合

電話北八幡二二二番

中山三業組合
市川市中山町

割烹旅館
妙泉閣
五十川玖表

壽美家
市川市中山法華經寺門前
電話北八幡二二四番

松丸益雄商店
市川市中山町北方

安心してお乳をのませる事の出來る
ち脚氣の藥
齊藤の脚氣藥
製造發賣元
中山藥局
藥劑師 齋藤哲四郎
市川市中山町高神石一一二

山田萬吉商店
市川市中山町

荒物
雜貨
エビス屋
谷口晃吉
市川市鬼越二五五番地

和洋酒
荒物雜貨
食料品
明石屋
重田才次郎
市川市中山町
電話北八幡七七番

葛飾町蛇目
石津齒科醫院
石津昂

葛飾町
齊藤齒科醫院

辯護士
法學士
山田盛義
黑羽法律事務所

市川市中山驛前（驛西側）
名倉堂接骨院
院主 熊谷鄰
電話北八幡三二五番

市川市中山停車場前
諸石材
砂利
セメント
石井石材店
電話北八幡十一△

ア サ ヒ 牧場
齋藤宇太郎
市川市中山町

市川市中山町

上田歯科醫院

院長 上田千之

電話北八幡二二番

歯科一般
口腔外科

市川市中山町高石神六五

鹿倉歯科醫院

日大歯科醫學士 鹿倉三雄

千葉縣指定代用精神病院

精神病科
腦病科

中山腦病院

電話北八幡二五四番

顧問醫學博士 小峯茂之

院長千葉醫學士 後藤五郎

位置 市川市中山町法華經寺山内

健康は
最後の勝利

筋肉の疲労を解消し
体力の蘇生をはかる
には

外用薬妙布の
貼用に限ります

主効
肩腰のコリ、リウ
マチス、心經痛、
運動づかれ、仕事
づかれ、筋肉の
いたみ等

妙布
外用

定價
二十錢
三十錢
五十錢
一圓

○全國各藥店
にあります

本舗 株式會社 渡邊輝綱藥房

社團
法人

中山競馬倶樂部

千葉縣東葛飾郡葛飾町

電話北八番
二一〇番
二一一番 事務所
三〇五番
二四二番 厩舍